

平成29年度玉城町

玄甲舎利活用ワークショップ

玉城町 平成29年度 第11号玄甲舎利活用方策調査研究業務

住民参加型まちづくりワークショップにおける対話プロセスの研究



皇學館大学教育開発センター 助教 池山敦

平成30年3月

目次

はじめに	1
1. 実施計画	3
2. ワークショップ実施記録	4
3. 無作為抽出について	20
4. アンケート結果	24
5. テキストマイニングによる内容の分析	27
おわりに	31
資料編	32

はじめに

本事業は、玉城町事業であるとともに、大学としては委託研究としての性質をもっている。玉城町事業としては「玉城町平成 29 年度第 11 号玄甲舎利活用方策調査研究業務」であり、大学での研究名としては「住民参加型まちづくりワークショップにおける対話プロセスの研究」となっている。実践を行うとともに、その内容について分析することが本事業（研究）の目的となっている。両者は表裏一体であり、本報告書中ではなるべく混乱を避けるように配慮したつもりである。



玄甲舎とは正式には玉城町指定有形文化財（史跡）「旧金森家別邸「玄甲舎」（茶室）」である。JR 参宮線田丸駅近く、玉城町のほぼ中心に位置し、約 170 年前に建築された歴史的建築物である。本報告書では単に「玄甲舎」と記載する。

「弘化 4 年（1847 年）、田丸城主久野丹波守（くの たんばのかみ）の家老で畿内の茶人三傑の一人とうたわれた金森得

水によって設計・建築された金森得水別邸「玄甲舎」。茶室・迎賓用を兼ねた数寄屋と、家族が生活を営む居宅で構成された数寄屋造りが特徴です。築後 170 年が経過していますが、建立時と大きな変化はなく、保存修復・整備によってほとんど当初に復元することが可能です。町では、敷地建物全体を史跡として位置付けて、平成 27 年度には建物の破損状況を含めた実地調査を行い、修理方針の取りまとめや耐震診断を行いました。平成 28 年度には、保存・活用して方法を検討し実施計画を行うことで、修復事業に取り組んできました。今後も復元・整備を進め、新しい地域文化振興の拠点施設として広く親しまれるように活用を考えています。」〔玉城町教育委員会, 2017〕金森家より町に寄贈されたこの歴史的建築物であるが、平成 25 年 1 月 9 日に町指定文化財となり現在にいたっている。

町では寄贈されてから調査、活用案の検討を行ってきたが、町議会の一般質問などにおいてもたびたび取り上げられている。寄付を受けたことの是非、調査費用について、国や県などの文化財指定か活用か、修復費用の財源など様々な観点から議会においても活発な議論が行われてきた。

最終的に平成 29 年 2 月 24 日付で「歴史・伝統文化を活かした多世代交流・魅力創造再生計画」として国から地域再生計画の認定を受け、地方創生拠点整備交付金の交付決定を受け、臨時議会での予算補正を行い財源確保し、全体修復と利活用を進めることとなった。計画の概要は「本事業は、当町の特色である歴史的まちなみや伝統文化財を活かし、多世代交流および伊勢志摩地域の魅力創造拠点として「玄甲舎」を増改築する。当該施設の利活用により郷土愛の醸成や地域内外の交流促進を図るとともに地域課題解決に向けた地域

運営組織を設置することで、認知度向上や地域活性化による流入人口の増加および雇用機会の創出などを図る。具体的には、指定管理者制度や住民活力などを十分に活用しながら「郷土愛を育む寺子屋」「住民の健幸をつくる集いの場づくり」「集客交流を促進させる魅力発信」などを実施する。」とされている。[玉城町, 2017]

このような経緯で実施されることとなった玄甲舎修復事業であるが、玉城町役場内での事務の所掌は、文化財としての視点からは教育委員会、利活用という視点からは総合戦略課が担当することとなっている。

前述の通り、議会をはじめとして多くの議論を重ねた結果、玄甲舎の修復についての町の方針は、「文化財の価値を保ちつつ、住民が活用する」というものである。そのために、二つの方面での作業が必要となった。まずは、文化財の価値を保護することである。これについては平成 27 年度に調査を行い、翌 28 年度に修復の設計と見積もりを行い平成 29 年度に修復工事を実施している。こちらの作業は高度に専門的な文化財の修復であるので、一般住民の意見を聞くという余地はあまりないといってよい。こちらについては前述の通り、教育委員会が所掌している。しかし、反対にもう一つの「住民が活用する」というフェーズに関しては、当然プレイヤー当事者である住民の声を広く聞く必要がある。

いわゆる箱物を整備しただけで簡単にまちが賑わうというような構図は現在では考えにくく、ハード整備をきっかけにいかに関民のまちづくりへのコミットを増やし、人口減少社会におけるまちづくりの起爆剤とするかが、今回の玄甲舎利活用プロジェクトの地方創生から見た大きなテーマとなっている。ハード整備に関して、建築家でもあり「コミュニティデザイナー」と呼ばれる山崎亮はこう述べる。「いい空間をつくるだけで人々が集うということがほとんどなくなった。むしろ重要なのは、弱体化した地縁型コミュニティの代わりにどんなコミュニティが屋外空間を使いこなすのか、ということである。まちを賑やかにするためには、斬新な広場のデザインが必要なのではなく、斬新な広場のマネジメントが必要なのである（下線筆者）。」[山崎 亮, 2012]

今回の事業はこの「広場のマネジメント」に住民参加を促し、住民がプレイヤーとなり多世代が集う「新しい広場」を作り出すことに目的があるといえる。最終的に 350 名を超える住民の参加を得て全 10 回のワークショップを終了した。その内容をここに詳細に報告する。

平成 30 年 3 月

皇學館大学教育開発センター助教

池山敦

謝辞

本研究の遂行にあたり、三重県地方自治研究センターから多大なご助力をいただいた。ここに深く感謝の意を表します。

1. 実施計画

前述の通りの経緯を経てスタートした玄甲舎修復プロジェクトであるが、皇學館大学がかかわる前提としては、玉城町との包括連携協定の存在がある。玉城町と皇學館大学は平成 29 年 5 月 26 日に包括連携協定に調印した。連携事項には（１）地域の歴史や伝統文化の振興に関する事項（２）地域の活性化に関する事項（３）教育の充実に関する事項（４）福祉の推進に関する事項（５）地域人材の育成に関する事項、とされており、今回の住民参加ワークショップ（以下 WS と表記する）の実施は主に（１）（２）の事項にあたるものである。

WS の実施について玉城町より打診をいただき、利活用の所管である総合戦略課と実施についての調整を行うこととなった。その中で、（１）10 回程度継続的に行うこと（２）WS の参加者には一部無作為抽出による住民を含むこと、などが合意され平成 29 年 6 月初旬に委託契約を行った。現場での会場設営、受付などの現場運営業務については、県内で多数の WS 実施実績がある特定非営利活動法人 M ブリッジに業務委託している。併せて、皇学館大学の学生リサーチアシスタントの協力を得て運営、データ処理等を行っている。

大学側の研究テーマとしては「住民参加型まちづくり WS における対話プロセスの研究」としており、逐語録の作成、録画・録音の実施などについて「人を対象とする研究」として学内研究倫理審査委員会における承認を得ている。今回実施する WS において録音録画を行う場合には研究実施者である筆者より冒頭で詳細に説明をし、同意書に署名をいただいたうえで、録画・録音を開始している。

図 1 に今回の WS 実施計画を示す。実施計画では WS を前半、後半にわけ、キックオフとしての第 1 回、そして総まとめとして最終の 10 回に、一部無作為抽出住民の参加する「玄甲舎利活用 100 人委員会」を行うこととした。多様な参加者を確保するため、大学生と町役場の若手職員による「ヨソモノ・ワカモノ」WS を第 2 回に、テーマ別委員会として町内の文化団体から広く参加者を募集し第 3 回～第 5 回を行った。

玄甲舎の利活用に関しては平成 30 年度以降に「地域運営組織」での管理運営を念頭に置いているので、徐々に参加者が絞られていき、最終的には運営に中心になりうる、実際のプレイヤーが見えてくるように意図している。実施計画全体として「拡散>収束」と大きく向かうようにデザインされている。

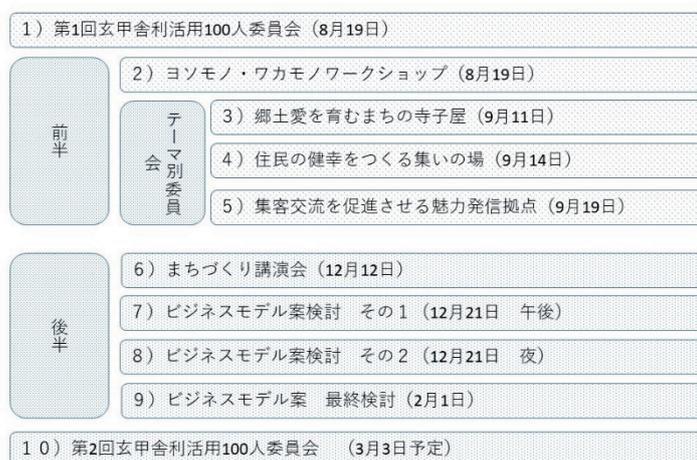


図 1 玄甲舎利活用ワークショップ実施計画

2. ワークショップ実施記録

平成29年8月から平成30年3月にかけて、合計10回実施したWSの実施記録をみていく。まずその中で、特徴的な内容を持つ「玄甲舎利活用100人委員会」を取り上げ、その後、すべての回の実施内容を報告する。

(1) 第1回玄甲舎利活用100人委員会

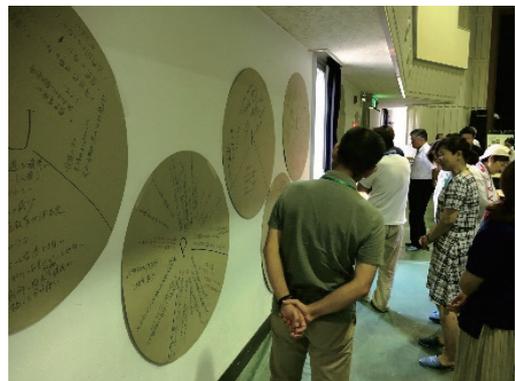
①えんたくん

10回のWSの中で第1回100人委員会を含む複数の回において、プログラムデザインにおいて段ボールの円卓である「えんたくん」(商品名、販売元有限会社 三ケ日紙工、写真参照)を使用した。「えんたくん」は円形の段ボールで、参加者の膝の上にのせ、その上に専用シートを重ね、直接円卓に対話の内容を書き込みながら使用する。



筆者の経験上「円」という形状と「膝に乗せる」という使用形態について好意的に迎えられることが多いようである。WSの現場では、講義スタイルのように全員が同じ方向を向くのではなく、テーブルを囲んで座り、チームとして共同作業を行うことに意味を見出す。中野は次のように述べている。「お互いの表情が見えないようでは相互作用による創造性は期待できない。[中野民夫, 2001]」

また、出た意見をその場で書き留めていくことも重要である。「せっかくでてきたアイデアや議論の核を、ただ話しっぱなしにしたり、初期や主催者が自分のノートにメモをとるだけでなく皆の目の前に皆が読める形で大きく書き留めていくことは、議論の無用な繰り返しが減り、きちんと積み重なっていくためにも大切なことだ。[中野民夫, 2001]」今回のプログラムのデザインにおいては、すべての参加者に水性マーカーをもってもらい、自分の意見を自分で書き留めながら話すこと、またほかの人の意見を聞いているときに、良いと思った意見を積極的に書き留めていくことを推奨した。また、このえんたくんのシートはそのままグループでの話し合いの内容を共有する際にも使用できる。今回の委員会では口頭での発表を行わず、シートを壁に掲示し参加者が見て回る「ギャラリー」という形式で行った。経験上WSにおける口頭発表を参加者は負担に感じていることが多く、「今日は発表を行いませ



ん」というだけで、参加者に安堵の色が見えることも多い。

②スタッフ

当日は、玉城町役場総合戦略課の職員、筆者、学生アシスタント、WS実施の委託先である特定非営利活動法人 M ブリッジのスタッフを合わせて15名で実施した。この中には、皇學館大学の実施する地域活動である CLL 活動（※）の一つ「玉城町玄甲舎プロジェクト」のメンバー5名も含まれる。それぞれが、会場設営、駐車場整理、受付、進行補助などを担当した。

③プログラムデザイン

今回のWSは次のような進行で実施した。

- 13:30 司会挨拶（司会、町長より挨拶）
- 13:35 玄甲舎復元プロジェクトについての説明（総合戦略課）
- 13:50 進行ルールなどの説明
- 14:00 自己紹介タイム
- 14:05 「えんたくん」を利用した意見交換
テーマ①玉城町の良いところ、残念なところ
- 14:35 休憩
- 14:45 「えんたくん」を利用した意見交換
テーマ②良いところを伸ばし、残念なところを克服するための玄甲舎の利活用方法
- 15:10 ギャラリー
- 15:25 挨拶

当日は冒頭に玉城町総合戦略課から玄甲舎復元プロジェクトについての概要を説明した。その後、ファシリテーター（筆者）より「玉城町玄甲舎利活用住民参加WS（全10回）」の全体の主旨と組み立てを伝え、本WSの目指すところ、進め方等を説明した。

その後、前述の「えんたくん」を各グループに配り、話し合いがスタートした。まずはグループ内での自己紹介をおこなう上で知らない人同士が話すきっかけをつくるためのコミュニケーションカード「あの街この街カード」（オリジナルツール）を活用し、活発な話し合いができる雰囲気づくりをおこなった。

WS前半では「あなたの思う玉城町のよい点、残念な点」をテーマに話し合った。えんた



2.ワークショップ実施記録



くんのシートに「よい点」「残念な点」を書くスペースをあらかじめ区切っておいたものを用意し、参加者が1人1本ペンを持って、それぞれの思いを話しながらシートに書き込んでいった。よい点としては「町産の野菜や果物、肉がおいしい」「多世代世帯が多い」「温泉がある」「熊野古道の出発地点」などの意見があがり、残念な点としては「図書館が小さい」「昔ながらのお店に活気がない」「田丸駅がさびれている」「交通の便が悪い」などそれぞれの思いを話しながらシートに書き込んでいった。

WS後半では「よいところを伸ばし、残念な点を克服するために玄甲舎はどう使えばいいでしょうか」というテーマで意見交換した。前半に考えた意見を眺めながら、玄甲舎が町民に愛される施設になるような利活用のアイデアを話し合った。活気ある雰囲気の中、「子供向けのお茶教室」「観月会を開く」「カフェスペースをつくり町民の憩いの場に」「庭園を活用したミニコンサート」など様々な意見やアイデアが生まれていた。

WSの最後は、グループを越えた参加者同士の交流の時間を設けた。展示会のように、書き込んだ「えんたくん」のシートを壁や椅子の上に展示し、各グループで話し合った内容を眺めながら、自由に対話を行った。和やかな雰囲気の中、他のグループの参加者同士がそれぞれの玉城町への思いや希望を生き生きと語り合い、交流が生まれていた。

※CLL 活動とは皇學館大学で実施する地域課題解決体験活動の総称であり、Community Learning Labo の略称である。伊勢志摩地域で地域課題の解決に取り組んでおられる組織、団体などに受け入れ先になっていただき、その課題解決の体験を通して学生が学ぶ学習プログラムである。単位の付与はなく、学生は活動時間証明の発行を受けることができる。平成30年3月現在、28活動にのべ264名の学生が参加している。本事業においては「玉城町玄甲舎プロジェクト」とし学生が玄甲舎利活用検討をとおしてまちづくりを学んでいる。

(2) 全WSの実施内容

第1回から第10回までのWSは次のように実施した。

玉城町玄甲舎WS 実施報告 vol.1

タイトル	第1回玄甲舎100人委員会 ～玉城町の今～
開催日時	平成29年8月19日(土) 13:30～15:30
開催場所	玉城町中央公民館 多目的ホール
参加者	115名(内訳は下記) ・自治区長(招待者) 18名 ・文化協会、各種団体(招待者) 66名 ・一般公募住民 17名 ・無作為抽出住民 10名
ファシリテーター	皇學館大学 教育開発センター助教 池山敦
スタッフ	皇學館大学 学生4名 NPO法人Mブリッジ 石丸隆彦・中川絵美子
当日の進行	
13:30	司会挨拶(司会、町長より挨拶)
13:35	玄甲舎復元プロジェクトについての説明(総合戦略課)
13:50	進行ルールなどの説明
14:00	自己紹介タイム
14:05	「えんたくん」を利用した意見交換 テーマ①玉城町の良いところ、残念なところ
14:35	休憩
14:45	「えんたくん」を利用した意見交換 テーマ②良いところを伸ばし、残念なところを克服するための玄甲舎の利活用方法
15:10	ギャラリー
15:25	司会挨拶
概要	
<p>玄甲舎が町民に愛される施設として利活用されるよう、町民の皆さんより、様々な視点からのご意見やアイデアをいただくことを目的に実施した。</p> <p>冒頭に玉城町総合戦略課から玄甲舎復元プロジェクトについての概要を説明した。その後、ファシリテーターより「玉城町玄甲舎利活用住民参加ワークショップ(全9回)」の全体の主旨と組み立てを伝え、第1回目(100人委員会)の目指すところ、進め方を説明した。</p> <p>その後、円卓型コミュニケーションツール「えんたくん」を各グループに配り、話し合いがスタートした。まずはグループ内での自己紹介をおこなった。知らない人同士が話すきっかけをつくるためのコミュニケーションカード「あの街この街カード」を活用し、活発な話し合いができる雰囲気づくりをおこなった。</p> <p>ワークショップ前半では「あなたの思う玉城町のよい点、残念な点」をテーマに話し合いをした。「えんたくん」のシートに「よい点」「残念な点」を書くスペースをあらかじめ区切っておき、参加者が1人1本ペンを持って、それぞれの思いを話しながらシートに書き込んでいった。よい点としては「町産の野菜や果物、肉がおいしい」「多世代世帯が多い」「温泉がある」「熊野古道の出発地点」などの意見があがり、残念な点としては「図書館が小さい」「昔ながらのお店に活気がない」「田丸駅がさびれている」「交通の便が悪い」などそれぞれの思いを話しながらシートに書き込んでいった。</p> <p>ワークショップ後半では「よいところを伸ばし、残念な点を克服するために玄甲舎はどう使えばいいでしょうか」というテーマで意見交換した。前半に考えた意見を眺めながら、玄甲舎が町</p>	

2.ワークショップ実施記録

民に愛される施設になるような利活用のアイデアを話し合った。活気ある雰囲気のなかで「子供向けのお茶教室」「観月会を開く」「カフェスペースをつくり町民の憩いの場に」「庭園を活用したミニコンサート」など様々な意見やアイデアが生まれていた。

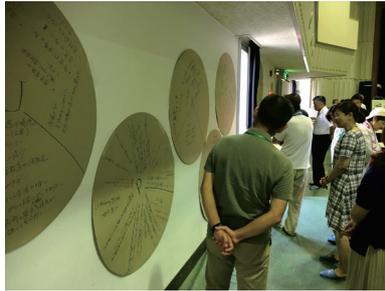
ワークショップの最後は、グループを越えた参加者同士の交流の時間を設けた。展覧会のように、書き込んだ「えんたくん」のシートを壁や椅子の上に展示し、各グループで話し合った内容を眺めながら、自由に対話した。和やかな雰囲気のなか、他のグループの参加者同士がそれぞれの玉城町への思いや希望を生き生きと語り合い、交流が生まれていた。

実施後のアンケートによると、およそ90%が「満足」と回答し、今年度内に開催予定の第2回玄甲舎100人委員会についても70%近くが「参加したい」と回答し、参加者の満足度は非常に高い結果となった。

実施風景



えんたくんを活用した意見交換



ギャラリーのようす



集合写真（会場全景）

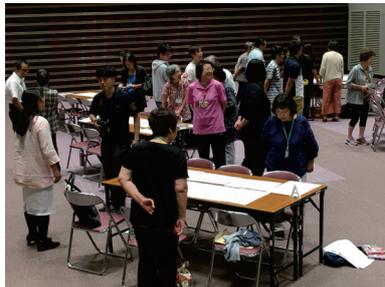
玉城町玄甲舎WS 実施報告 vol.2

タイトル	ワカモノ・ヨソモノワークショップ～私の考える玉城町の魅力 ※WS前期(2)	
開催日時	平成29年8月25日(金) 13:30～15:30	
開催場所	玉城町役場 住民ホール	
参加者	19名(内訳は下記) <ul style="list-style-type: none"> ・東京大学体験活動プログラム参加者 1名 ・皇學館大学共生学実習履修者 3名 ・皇學館大学CLL活動「玉城町玄甲舎プロジェクト」参加学生 4名 ・皇學館大学CLL活動「玉城豚ブランド化プロジェクト」参加学生 4名 ・玉城町役場若手職員 7名 	
ファシリテーター	皇學館大学 教育開発センター助教 池山敦	
スタッフ	NPO法人Mブリッジ 石丸隆彦・中川絵美子	
当日の進行		
13:30	司会挨拶	
13:35	プレゼンテーション ①CLL学生 「玄甲舎プロジェクト」発表 ②皇學館実習生「玉城町の持つ地域資源と可能性」 ③東京大学学生「政策提案」	
14:15	「えんたくん」を利用した意見交換 (テーマ①)内外からみた玉城町の魅力	
14:40	休憩	
14:45	「えんたくん」を利用した意見交換 (テーマ②)ワカモノ・ヨソモノだからこそできる玉城町の活性化	
15:25	講評(町長ほか)	
15:30	終了	
概要		
<p>「ヨソモノ・ワカモノ」からみた玉城町の魅力を探ることを目的に大学生と町職員の若手を対象に実施した。前半では、東京大学体験活動プログラム、皇學館大学伊勢志摩共生学実習の成果発表も兼ねて学生からのプレゼンテーションを行った。聴講者は、プレゼンの感想を付箋紙に記入し、学生らへのフィードバックをした。感想には「若い視点の発想に驚かされた」などの意見や「もし自分が町職員なら何をしたい？」などの問いかけもみられた。後半は、「えんたくん」を活用して意見交換を行った。まずは「内外からみた玉城町の魅力はどんなものがあるでしょうか」というテーマについてグループごとに話し合いをおこなった。「食べ物が美味しい」「町づくり意識のある町民が多い」など、実体験を通じて見つけた魅力の話題で盛り上がっていた。次に「ワカモノ・ヨソモノだからこそできる玉城町の活性化はどのようなものなのでしょうか」というテーマでグループごとに意見交換をおこなった。前半で出た町の魅力を活かすための「SNSと連動したPRイベント」など若者ならではの視点のアイデアが数多く生まれていた。最後は町長より総評をいただき、終了した。</p>		
実施風景		
		
プレゼンのようす	えんたくんを活用した意見交換	ワークショップ実施風景

玉城町玄甲舎WS 実施報告 vol.3

タイトル	玄甲舎利活用ワークショップ 第3回 ※WS前期 (3)	
開催日時	平成29年9月11日 (月) 19:00~20:30	
開催場所	玉城町保健福祉会館 ふれあいホール	
参加者	27名 (内訳は下記) ・玉城町住民 23名 ・皇學館大学C L L活動「玉城町玄甲舎プロジェクト」参加学生 4名	
ファシリテーター	皇學館大学 教育開発センター助教 池山敦	
スタッフ	NPO法人Mブリッジ 石丸隆彦・中川絵美子	
当日の進行		
19:00	挨拶、事業概要・研究についての説明	
19:10	自己紹介 (グループ内)	
19:20	春夏秋冬のイベント開催概要作成ワーク	
20:15	ギャラリー (交流)	
20:25	終わりの挨拶	
概要		
<p>「郷土愛を育むまちの寺子屋」をテーマに、玄甲舎の利活用について住民から意見を聴くワークショップを実施した。本テーマでは、伝統ある茶室や田丸城跡などの伝統文化を伝える機会や住民が趣味・創作・学習を行える集いの場として多世代交流による玄甲舎の活用方法を検討した。</p> <p>まずは、8月19日に実施した「玄甲舎利活用100人委員会」で出た利活用の意見やアイデアをカード化したものを各グループのテーブルの上に広げ、参加者が気に入ったカードを1枚選んで、グループ内で自己紹介をした。その後、グループで話し合いながら、玄甲舎を活用したイベントの開催概要の作成ワークに取り組んだ。参加者らは、アイデアカードのキーワードを掘り下げたり、組み合わせたり、内容を肉付けしながら未来のイベント案を検討。そしてイベントの開催チラシを作成するイメージで、具体的なイベントの内容をワークシートに書き込んだ。参加者からは、和の文化に親しんだり、町民同士の交流を深める様々なイベントの案が生まれていた。</p> <p>ワークショップのプログラム面の工夫としては、行政が主催するのではなく、住民主体の企画を前提に考えてもらうことで、参加者の主体性や当事者意識を促した。また四季という枠組みを設けることで、参加者がアイデアを考えやすくなるようにした。</p> <p><出されたアイデアの一例></p> <p>春 : 「桜を見ながら気楽なお茶会」「玄甲舎の歴史を知ろう」など 夏 : 「玄甲舎夏祭り」「お茶でアートを楽しもう」など 秋 : 「薪能と観月会」「お茶に合う和菓子コンテスト」など 冬 : 「カルタ大会」「茶道を楽しむクリスマス婚活」など 通年 : 「春夏秋冬を通じてお茶の楽しさを知る連続講座」、「若い親子向けの作法教室」など</p> <p>最後はグループを越えた交流の時間とし、参加者らが自由に対話した。参加者からは「このワークショップでの交流をきっかけに団体をつくり企画するのも楽しそう」という声も聞かれた。</p>		
実施風景		
		
カードを使った自己紹介	イベント開催概要作成ワーク	交流 (会場全景)

玉城町玄甲舎WS 実施報告 vol.4

タイトル	玄甲舎利活用ワークショップ 第4回 ※WS前期(4)	
開催日時	平成29年9月14日(木) 19:00~20:30	
開催場所	玉城町保健福祉会館 ふれあいホール	
参加者	35名(内訳は下記) ・玉城町住民 31名 ・皇學館大学CLL活動「玉城町玄甲舎プロジェクト」参加学生 4名	
ファシリテーター	皇學館大学 教育開発センター助教 池山敦	
スタッフ	NPO法人Mブリッジ 石丸隆彦・中川絵美子	
当日の進行		
19:00	挨拶、事業概要・研究についての説明	
19:10	自己紹介(グループ内)	
19:20	春夏秋冬のイベント開催概要作成ワーク	
20:15	ギャラリー(交流)	
20:25	終わりの挨拶	
概要		
<p>「住民の健幸をつくる集いの場」をテーマに、玄甲舎の利活用について住民から意見を聴くワークショップを実施した。本テーマでは、茶室スペースや庭園を活用した集い・賑わいを創ることで、住民の外出機会や共通の趣味による顔なじみを増やし、住民の健幸(健康)をサポートすることを検討した。</p> <p>プログラムデザインは3~5回共通であり、今回は参加者からは、趣味を通じた交流のアイデアや季節を楽しむ様々なイベントの案が生まれていた。</p> <p><出されたアイデアの一例></p> <p>春 : 「玄甲舎と田丸城下を歩く会」「健康ウォーキング」など 夏 : 「玄甲舎の庭で流しそうめん」「座禅の会」など 秋 : 「満月の夜空の下で趣味全開祭り」「歴史を感じるスタンプラリー」「将棋大会」など 冬 : 「昔の遊びを体験しよう」など 通年 : 「玄甲舎で映画鑑賞」「玄甲舎カフェプロジェクト」「金森得水常設展」など</p> <p>最後はグループを越えた交流の時間とし、参加者らが自由に対話した。終始和やかで、アイデアの実現へ向けた前向きな声や、互いの活動の情報交換などが活発に行われていた。</p>		
実施風景		
		
概要説明	イベント開催概要作成ワーク	交流のようす

玉城町玄甲舎WS 実施報告 vol.5

タイトル	玄甲舎利活用ワークショップ 第5回 ※WS前期 (5)	
開催日時	平成29年9月19日 (火) 19:00~20:30	
開催場所	玉城町保健福祉会館 ふれあいホール	
参加者	26名 (内訳は下記) ・玉城町住民 25名 ・皇學館大学C L L活動「玉城町玄甲舎プロジェクト」参加学生 1名	
ファシリテーター	皇學館大学 教育開発センター助教 池山敦	
スタッフ	皇學館大学学生1名 NPO法人Mブリッジ 石丸隆彦・中川絵美子	
当日の進行		
19:00	挨拶、事業概要・研究についての説明	
19:10	自己紹介 (グループ内)	
19:20	春夏秋冬のイベント開催概要作成ワーク	
20:15	ギャラリー (交流)	
20:25	終わりの挨拶	
概要		
<p>「集客交流を促進させる魅力発信拠点」をテーマに、玄甲舎の利活用について住民から意見を聴くワークショップを実施した。本テーマでは、JR田丸駅を中心とし玄甲舎と田丸城跡とつなぐ文化活動の拠点として、文化財の展示、民芸品の提供・販売による集客交流の促進を検討した。</p> <p>プログラムデザインは3~5回共通であり、今回参加者からは、地域資源を活かすアイデアや今の時代を反映したSNSを活用したイベントの案などが生まれていた。</p> <p><出されたアイデアの一例></p> <p>春 : 「玄甲舎でマルシェ」「おひなさま茶会」など</p> <p>夏 : 「花火大会」「野外コンサート」など</p> <p>秋 : 「カラオケ大会」「サイクリングと玉城豚を食す会」など</p> <p>冬 : 「クリスマスコンサート」「わがまちの歴史を語ろう会」など</p> <p>通年 : 「得水さんを偲ぶ会」「玉城町歴史入門講座」「和服の写真スポット」など</p> <p>最後はグループを越えた交流の時間とし、参加者らが自由に対話した。各グループのアイデアを眺めながら、互いの思いを伝え合うなど、参加者同士の横のつながりが生まれていた。</p>		
実施風景		
		
カードを使った自己紹介	イベント開催概要作成ワーク	交流のようす

玉城町玄甲舎WS 実施報告 vol.6

タイトル	玄甲舎利活用ワークショップ 第6回 ※WS後期(1)	
開催日時	平成29年12月12日(火) 18:30~20:00	
開催場所	玉城町保健福祉会館 ふれあいホール	
参加者	玉城町住民 30名	
ファシリテーター	皇學館大学 教育開発センター助教 池山敦 講演 浅見雅之氏	
スタッフ	NPO法人Mブリッジ 石丸隆彦・中川絵美子	
当日の進行		
19:00	挨拶、事業概要についての説明	
19:05	まちづくり講演会(ワークショップ)	
20:55	終わりの挨拶	
概要		
<p>第6回は、玄甲舎の利活用促進へ向けて、施設の管理運営や運営サポートの担い手となる住民の意識づくりを目的に行った。合同会社人・まち・住まい研究所代表の浅見雅之氏(プロフィールは下記)を講師に迎え、「ゼロからのまちづくり～津波被害復興のまちづくりから学ぶ～」と題した講演会を開催。「住民主体のまちづくり」という視点から、玄甲舎の利活用と管理運営のヒントを探った。</p> <p>浅見氏は、兵庫県が行う被災地への専門家派遣制度を活用して、気仙沼市の鹿折地区・只越地区の復興まちづくりの支援に関わってきた。講座は、実体験に基づく事例を中心に展開した。例えば、鹿折地区では地域コミュニティが壊れかけていた中で、地域の歴史を学び直すことが住民のアイデンティティ醸成につながったという。また只越地区における防災集団移転のための話し合いの場では、住民の意見を整理したり、必要な専門家・役所などと繋いだり、必要に応じて専門的な情報を翻訳したり…とあくまで主体は住民としながら伴走、支援することで、全員が合意のうえでの地域づくりがうまくいった事例を紹介した。そのうえで、まちづくりとは「地域の困りごとを長期にわたる住民自らの取り組みで解決しようとする活動」とあると言及。今後、確実に人口が減少する時代に、住民一人ひとりが「参画」と「協働」の概念をもって行動することが必要だと伝えた。</p> <p>最後は1～5の番号が書かれた旗を各参加者に配り、玉城町に対する想いについて5択式の「旗挙げアンケート」を実施した。講師から「玉城町が好きですか?」「住み続けたいと思うか?」などを問かけると、参加者は当てる番号の旗を挙げ、様々な視点から玉城町について振り返って考えた。「玉城町のために何かすべきか?」という問いに対しては8人が「すでに将来のために始めていることがある」と答え、「幼稚園で子育て活動をしている」「里山の再生に取り組んでいる」「住民の集いの場をつくっている」などの意見が上がっていた。</p> <p>参加者からは「住民自らがクリエイティブに生活を考えていく大切さが伝わった」「事例、実体験を交えた内容でわかりやすかった」「玄甲舎に縛られず、生き生きしたまちづくりのために参考にしたい」などの感想があった。</p>		
講師プロフィール		
<p>浅見 雅之(あさみ・まさゆき)氏(合同会社人・まち・住まい研究所代表社員、特定非営利活動法人 神戸まちづくり研究所事務局長、建築家/地域コーディネーター/一級建築士)</p> <p>2010年「人・まち・住まい研究所」を設立。ドアノブのような小さなモノから地域計画のような大きなモノのデザインを対象に、計画に関係する全ての人々に関わる関わり方の「プロセスデザイン」を得意分野とし、住民参加によるデザイン・設計・運営等をコーディネートしている。兵庫県内では、小規模集落の活性化に関わる他、オールドニュータウン再生・建築協定の締結支援・まちづくり協議会運営支援などに関わる。また宮城県気仙沼・熊本県では災害復興まちづくりの支援活動を行う。</p>		
実施風景		
		
講演会のようす(会場全景)	旗挙げアンケート	参加者との意見交換

玉城町玄甲舎WS 実施報告 vol.7

タイトル	玄甲舎利活用ワークショップ 第7回 ※WS後期 (2)	
開催日時	平成29年12月21日 (木) 15:00~17:00	
開催場所	玉城町保健福祉会館 ふれあいホール	
参加者	玉城町住民 15名	
ファシリテーター	皇學館大学 教育開発センター助教 池山敦	
スタッフ	NPO法人Mブリッジ 石丸隆彦・中川絵美子	
当日の進行		
15:00	挨拶	
15:05	玄甲舎利用計画の現状と事業モデルについての説明	
15:55	ワークショップの進行を説明後、席移動	
16:00	自己紹介・情報交換 (グループ内)	
16:10	自分にできることを考えるワーク	
16:40	ギャラリー (交流)	
16:55	終わりの挨拶	
概要		
<p>これまで「玄甲舎100人委員会」「テーマ別委員会 (WS前期)」において、住民よりたくさんアイデアや意見をいただいていた。これらの意見等を踏まえ、取りまとめた事業モデルをさらに実現可能なものとするために、第7回は「郷土愛を育むまちの寺子屋」「住民の健幸をつくる集いの場」の分野における事業モデルの検討及び担い手人材の発掘を目的に実施した。</p> <p>まずは事業モデルの取りまとめを行ったデロイトトーマツコンサルティングの担当者から上記分野で検討している4つの事業内容 (①寺子屋、②サテライトキャンパス、③健康促進、④集いの場) についての説明を行った。その後、ワークショップに進む予定だったが、参加者から玄甲舎の利活用についての質問があり、質疑応答の時間を設けて対応した。</p> <p>ワークショップが始まると、参加者は、4つの事業内容から自身が興味関心のあるテーマのグループに移動した。まずはグループ内で自己紹介として、なぜそのテーマを選んだか、テーマと自身 (自団体) の関わりなどを話した。その後、選んだテーマに対して自分がどのように関わられるか、できることをワークシートに記入した。その際、自分ではできなくても、知り合いに頼めば実現可能なことも記入できるようにすることで、参加者の発想を促す工夫とした。記入したワークシートは、グループ内で発表し合った。最後はグループを越えた全体の交流の時間を設け、参加者らがそれぞれのワークシートを見ながら、自由に対話し、情報交換を行った。</p> <p><ワークシートの内容一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・お茶室やカフェのお手伝いができる ・妹が煎茶教室ができる ・玉城語り部会 (自分) が子どもたちに歴史を語る ・看護師のOBが常駐し、無料の血圧測定や康についての気軽な相談ができる体制をつくる ・文化協会の中のサークルが詩吟、コーラス、大正琴の演奏など月替わりのイベントをする ・健康しあわせ委員が健康ウォーキングを実施し、最後に玄甲舎に着いて休憩する など 		
実施風景		
		
グループでの話し合い	ワークショップの全景	参加者同士の意見交換

玉城町玄甲舎WS 実施報告 vol.8

タイトル	玄甲舎利活用ワークショップ 第8回 ※WS後期 (3)	
開催日時	平成29年12月21日(木) 18:30~20:00	
開催場所	玉城町保健福祉会館 ふれあいホール	
参加者	玉城町住民 13名	
ファシリテーター	皇學館大学 教育開発センター助教 池山敦	
スタッフ	NPO法人Mブリッジ 石丸隆彦・中川絵美子	
当日の進行		
18:00	挨拶	
18:05	玄甲舎利用計画の現状と事業モデルについての説明	
18:20	ワークショップの進行を説明後、席移動	
18:35	自己紹介・情報交換(グループ内)	
18:50	自分にできることを考えるワーク	
19:15	誰かと一緒にできることを考えるワーク	
19:40	ギャラリー(交流)	
19:55	終わりの挨拶	
概要		
<p>第8回は「集客交流を促進魅力発信拠点」の分野における事業モデルの検討及び担い手人材の発掘を目的に実施した。</p> <p>まずは事業モデルの取りまとめを行ったデロイトトーマツコンサルティングの担当者から上記分野で検討している4つの事業内容(①観光、②イベントA、③イベントB、④飲食、郷土料理)についての説明を行った。</p> <p>その後、参加者は、4つの事業内容から自身が興味関心のあるテーマのグループに移動した。まずはグループ内で自己紹介として、なぜそのテーマを選んだか、テーマと自身(自団体)の関わりなどを伝え合い、その後、選んだテーマに対して自分がどのように関わられるか、できることをワークシートに記入した。書いたワークシートはグループ内で発表し合い、新たな発想の広がりや情報交換を促した。さらにその後、「自分ひとりでは実現できないが、誰かと一緒ならできること」という視点で、玄甲舎を利活用してやりたいことをワークシートに記入し、グループ内で発表し合った。また最後には、グループを越えた全体の交流の時間を設け、参加者らがそれぞれのワークシートを見ながら、自由に対話した。互いのワークシートを見合うことで、会場では新たなつながりが生まれていた。</p> <p><ワークシートの内容一例></p> <p>自分ができること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どものおもちゃの修理ができる ・カフェなどに飾る生け花を届けられる ・おせっかいお婆さんができる(独身男女を集められる) ・茶道の基本を教えられる ・犬のおやつやご飯を作ることができる ・自分の抹茶の先生がお茶会教室事業として茶会を開いてもらえる <p>誰かと一緒にできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・玉城の音楽愛好家とお茶をいただきながら、弦・管楽器の演奏会 ・町内のまちかど博物館の会員とコレクションの展示、実演など ・子どもたち、外国の方と一緒に、子ども達に茶道の作法を学んでもらい、外国の方に英語で説明するコミュニケーションの場づくり など 		
実施風景		
		
事業モデルの説明	グループでの話し合い	ギャラリー(交流)

玉城町玄甲舎WS 実施報告 vol.9

タイトル	玄甲舎利活用ワークショップ 第9回 ※WS後半(4)
開催日時	平成30年2月1日(木) 18:00~20:30
開催場所	玉城町保健福祉会館 ふれあいホール
参加者	玉城町住民 19名
ファシリテーター	皇學館大学 教育開発センター助教 池山敦
スタッフ	皇學館大学 杉森陸・林雅也 NPO法人Mブリッジ 石丸隆彦
当日の進行	
18:00	挨拶、玄甲舎利活用事業に関する説明(総合戦略課)
18:05	これまでの事業経緯と本WSの位置づけなどの説明
18:10	中期事業計画(案)、具体的な事業内容の報告(デロイトトーマツコンサルティング)
18:30	自己紹介(グループ内)
18:35	地域運営組織設立時の仕事(事業)バリエーションを増やすワーク①
18:55	地域運営組織設立時の仕事(事業)バリエーションを増やすワーク②
19:20	ギャラリー(交流)
19:30	アンケート記入、休憩
19:40	「生涯現役」についてディスカッション(デロイトトーマツコンサルティング)
20:20	終わりの挨拶
概要	
<p>第9回は2部構成で、前半は地域運営組織設立時の仕事(事業)のバリエーションを増やす目的でワークショップを実施し、後半はデロイトトーマツコンサルティングが「生涯現役」についてディスカッションを実施した。</p> <p>まずは事業モデルの取りまとめを行ったデロイトトーマツコンサルティングの担当者から、中期事業計画(案)、具体的な事業内容の報告(①管理型、②イベント型、③行政委託型の事業形態)の説明を行った。</p> <p>その後、参加者は、文化部会(仮)として玄甲舎を活用した「郷土愛を醸成する茶道・語り部教室」、交流部会(仮)として庭等の周辺活用した「地域間・多世代交流を生む文化イベント(観月会、花見など)」、情報発信部会(仮)として事務所を活用した「玉城の魅力創造・発信拠点(観光案内所、一坪SHOP、広報誌作成)」の3グループに分かれ、地域運営組織が設立された時の仕事(事業)のバリエーションを増やす意見交換を行った。具体的には、マーケティングで対象を検討するように、それぞれの部会で「地元住民」「ファミリー」「子供」「高齢者」「外国人」「その他」を対象者として、まずは個人で仕事(事業)のバリエーションを考え付箋に書き出し、各対象者が印刷された大判用紙に付箋を貼りそれぞれの考えを共有した(ワーク①)。ワーク②では、付箋が少ない対象者に向けた仕事(事業)のバリエーションをグループ全体で考え、新たに付箋に書き出し事業の強化を図った。付箋が貼られた各グループの大判用紙は掲示し、各グループでどんな意見が出されたのか参加者それぞれが閲覧しながら交流をした。</p> <p>後半は「生涯現役」についてのディスカッションをデロイトトーマツコンサルティングの進行で行った。具体的には、生涯現役の考え方を説明後、ワークシートに①過去の地域活動の参加経験、②参加した理由や思い、③玄甲舎利活用に地域住民をどう巻き込むか?の3つのテーマでディスカッションを行い、各テーマでグループ共有がされた。</p> <p><仕事(事業)バリエーションの内容一例></p> <p>【文化部会(仮)郷土愛を醸成する茶道・語り部教室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的背景などを子供たちに語り継ぐ(ファミリー、子供) ・通訳を通じて、茶道など日本文化を伝える(外国人) など <p>【交流部会(仮)地域間・多世代交流を生む文化イベント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通訳、保育、介助などのスタッフ育成講座(地元住民) ・託児スペースや託児スタッフのサービス提供(ファミリー) ・障がい者への手話や筆記によるガイド(その他) など <p>【情報発信部会(仮)玉城の魅力創造・発信拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・玄甲舎マイスター育成講座、玄甲舎検定(地元住民) ・「広報たまき」の放送で「今日の玄甲舎一言ニュース」配信(地元住民) 	

2.ワークショップ実施記録

・元気バスの車内で玄甲舎の情報発信（高齢者） など
 <「生涯現役」についてディスカッションの内容一例>

①過去の地域活動の参加経験

まちかど博物館を主催、子供安全パトロール員、聴覚障害者の手話の手伝い、防災ボランティア、認知症サポーター、おもちゃ病院活動など

②参加した理由や思い

活動を通じた交流がしたかったから、趣味の延長として、高齢化のボケ防止、子育てしやすいまちづくりのため、誰かの役に立ちたかったからなど

③玄甲舎利活用に地域住民をどう巻き込むか？

コーディネーターや核になる人づくり、子供が集まる仕掛けを作り親も一緒に巻き込む、地域住民が気軽に参加できる・活動できる運営、町民の玄甲舎への意識を醸成など

実施風景



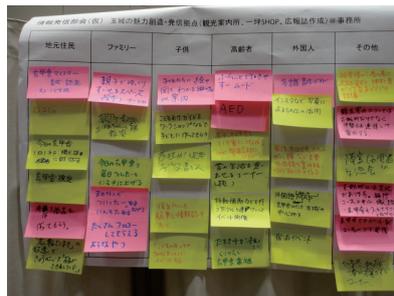
中期事業計画(案)の説明



グループでの話し合い(前半)



ギャラリー（交流）



事業バリエーション



「生涯現役」ディスカッション

玉城町玄甲舎WS 実施報告 vol.10

タイトル	第2回玄甲舎100人委員会～20年後の玉城町
開催日時	平成30年3月3日(土) 13:30～15:30
開催場所	玉城町中央公民館 多目的ホール
参加者	55名(内訳は下記) <ul style="list-style-type: none"> ・自治区長(招待者) 8名 ・文化協会、各種団体(招待者) 21名 ・一般公募住民 14名 ・無作為抽出住民 12名
ファシリテーター	皇學館大学 教育開発センター助教 池山敦
スタッフ	皇學館大学学生4名 NPO法人Mブリッジ 石丸隆彦・中川絵美子
当日の進行	
13:30	司会挨拶(司会、町長より挨拶)
13:35	玄甲舎復元プロジェクトについての説明(総合戦略課)
13:40	これまでのワークショップについての説明(池山)
13:45	玄甲舎の作業現場からの生中継
13:50	中期事業計画についての説明(デロイトトーマツコンサルティング)
14:10	進行ルールなどの説明(池山)
14:15	「えんたくん」を利用した意見交換 テーマ①今年生まれた子供たちが20年後に帰ってきたくなる玉城町とは?
14:35	休憩
14:45	「えんたくん」を利用した意見交換 テーマ②そんな町になるために町の文化財である『玄甲舎』はどうあるべきか?
15:10	ギャラリー
15:25	司会挨拶
概要	
<p>8月から実施してきた玄甲舎利活用住民参加ワークショップの締め括りとして、半年間を振り返り、対話を通して玄甲舎と住民との関わり方の未来を探ることを目的に実施した。</p> <p>冒頭に玉城町総合戦略課から玄甲舎復元プロジェクトについての概要を説明。その後、ファシリテーターより、これまでの9回のワークショップがどのように進められてきたのか、概要資料をもとに説明した。説明の終わりには、皇学館大学の学生が修復作業中の玄甲舎へ行き、携帯アプリのビデオ通話を利用して、玄甲舎からのライブ中継を実施。修復中の玄甲舎をよりリアルに伝えた。続いて、事業モデルの取りまとめを行ったデロイトトーマツコンサルティングの担当者より、ワークショップ等での意見を踏まえて考えた玄甲舎の中期事業計画を説明した。玄甲舎を拠点にして取り組む事業、収支予想、黒字化しながら自立的に運営していくためのポイントなどを説明した。</p> <p>その後、円卓型コミュニケーションツール「えんたくん」を各グループに配り、話し合いがスタートした。まずはグループ内での自己紹介をおこなった。知らない人同士が話すきっかけづくりとして自己紹介の共通テーマに「苦手なもの」を設定。ランダムに分けられたグループで和やかに打ち解けられる雰囲気づくりをおこなった。</p> <p>ワークショップ前半では「今年生まれた子供たちが20年後に帰ってきたくなる玉城町とは?」をテーマに話し合いをした。参加者が1人1本ペンを持って、それぞれの思いを話しながら「えんたくん」のシートに書き込んでいった。参加者からは「人と人がつながる場所がある町」「美しい自然が残る町」「働きたい職場、企業がある町」「思い出の場所の残る町」「食べ物がおいしい町」「活気のある町」などの意見があがり、住民が思う“未来の玉城町”の姿を対話によって共有し、</p>	

2.ワークショップ実施記録

シートに書くことで可視化した。

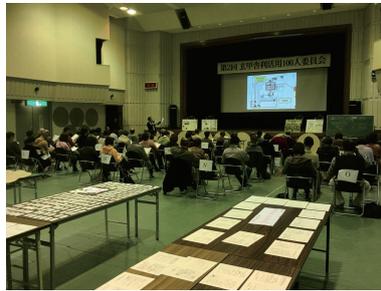
ワークショップ後半では、「そんな町になるために町の文化財である『玄甲舎』はどうあるべきか?」というテーマで意見交換した。前半に考えた意見を眺めながら、玄甲舎に対する意識や願いを掘り下げていった。活気ある雰囲気なかで「単なる茶室ではなく、子どもたちが玄甲舎と共に育つ場所となるよう、子ども向けの茶道教室を充実させる」「地元物産の販売を行い、玉城町に訪れる人を増やす」「町内・町外に限らず、人と人が交流できる場所に」「思い出に残るイベントを行う」など、未来を見据えた様々な意見がたくさん生まれていた。

ワークショップの最後は、グループを越えた参加者同士の交流の時間を設けた。展示会のように、書き込んだ「えんたくん」のシートを壁や椅子の上に展示し、各グループで話し合った内容を眺めながら、自由に対話した。また会場内には9回のワークショップで作成したワークシートの展示や、モニターでワークショップの記録写真をスライドショーで流すなどして、これまでの流れや参加者の意見・アイデアを見えるようにした。和やかな雰囲気なか、参加者同士がそれぞれの玄甲舎への思いや希望を語り合った。

実施風景



玄甲舎現場からの生中継



会場のようす



えんたくんを囲んで話し合い



話し合いのようす



ワークシート等の展示



ギャラリー（交流）のようす

3. 無作為抽出について～住民参加のデザイン

(1) 先行事例の研究

「100人委員会」としての住民参加のデザインの先行例として、ふたつの例を検討したい。

① 先行事例1「京都市未来まちづくり100人委員会」

まず一つ目は「京都市未来まちづくり100人委員会」である。WEBサイトによると「未来の京都を築くために、市民の皆様が主体的に運営する中で、まちづくりについて、白紙の段階から議論し、行動、実践する「京都市未来まちづくり100人委員会」(以下「100人委員会」という。)を設置する」とされている。[京都市総合企画局総合政策室市民協働推進担当, 2018]京都市未来まちづくり100人委員会は、2008年9月に設立され、2015年まで5期にわたって編成され、さまざまなまちづくり上の課題を題材に市民参加の新たなスタイルを提案してきた。

[ぎょうせい, 2013.04]によると、1～3期ではNPO法人が事務局を担い、委員はすべて無報酬のボランティアがいない、定例会議を毎月第4土曜日の午後にもち、「ひとつをつなぐ福祉のコミュニティづくり」「歩きやすい道」などの分科会に分かれて継続的に討議を行ったという。

2012年からスタートした第5期においては「京都・未来まちづくりミーティング」と題して無作為抽出の市民を含む100人規模での討議を実施している。手法としては、「住民基本台帳から無作為で選出した京都市民7000人[10歳代(高校生以上)～70歳まで、各世代から1000人ずつを選出(男女同数)]、選出した市民に送付した招待状への返信数:561件(そのうち参加希望150件)、参加の有無とは別に『今後100人委員会の情報提供を希望』245件、参加者数:延べ108人[合計3回開催](□筆者注)」「[特定非営利活動法人京都NPOセンター, 2014]であった。ミーティングの結果をうけ、16の重点テーマを決定しその後の100人委員会での話し合いにつなげていったという[ぎょうせい, 2013.04]。各期の100人委員会の活動については詳細な報告書にまとめられ、WEBでも公開が行われている。

② 先行事例2「智頭町百人委員会」

もう一つの事例として、鳥取県智頭町における「智頭町百人委員会」を見てみたい。その設立趣旨は「智頭町の自立度を高めて、活力ある地域づくりを進めていくためには、町政へ住民の皆さんの声を反映していくことが必要であることから、平成20年「智頭町百人委員会」が設置されました。百人委員会は、住民が身近で関心の高い課題を話し合い、これを解決するための政策を行政に提案していく組織であり、智頭町ならではの

3.無作為抽出について

住民自治の実践をめざします [智頭町, 2018]」同サイトによると平成 29 年度は延べ 96 名の委員が登録している。

委員会の所掌事務としては、智頭町百人委員会設置要綱第 2 条によると「委員会は、智頭町内における各種政策等について意見を町長に述べることとする。」とあり、第 3 条より商工・観光部会以下 7 部会に編成されている。なかでも地域性を示すものとしては獣害対策部会があることであろう。また、要綱には行政側、町民側相互の責任を 7 条の 2 項、3 項に明記している。「第 7 条 2 町長は、企画提案会で提出された内容を精査した上で、これを尊重し、智頭の地域の発展と住民福祉の向上のため、町政に反映させるものとする。3 委員は、企画提案した内容について、「自立と持続を推進するまちづくり交付金」などを活用し、住民主体で事業を展開するものとする。」 [鳥取県智頭町, 2018] つまり、ここに行政が町民の意見を尊重するとともに、言いつばなしにせず、町民自身がプレイヤーとなって事業を推進する責任を負うということが書かれており、「自分ごと」としてまちづくりに取り組む町民の姿を示している。

現在でも取り組みは続いており、詳細な報告書が同サイトにアップされているとともに、町民に対する周知として、町の「広報ちづ」に各部会の報告が掲載されており、平成 30 年 1 月号には「健康部会だより④」などが掲載されている。

③本事業における住民参加のデザインと無作為抽出

	玉城町第 1 回		京都	
人口	15,641		1,475,183	
発送数／対人口比	300	1.9%	7000	0.5%
返信数／対発送数	163	54.3%	561	8.0%
参加者数／対発送数	11	3.7%	108	1.5%
人口に占める 100 人の割合	0.639%		0.007%	

今回、玄甲舎利活用 100 人委員会を実施するにあたり、玉城町との協議をする中で次のような合意を当初からしていた。いわゆる「まちづくり WS」を実施する際に参加者の公募

をかけるといつもの顔ぶれが集まってしまうことが多い。実際に WS に参加できる時間が確保できるかどうか、興味関心があるか、などの理由があると考えられるが、その「いつもの顔ぶれ」で WS を行ったことでは「住民から広く声を聴いた」とはいえないであろう。そこで、今回の WS には無作為抽出による住民参加のプロセスを組みこむことにした。

8 月 19 日に実施した第 1 回 100 人委員会における無作為抽出の住民参加プロセスは次のようにデザインした。

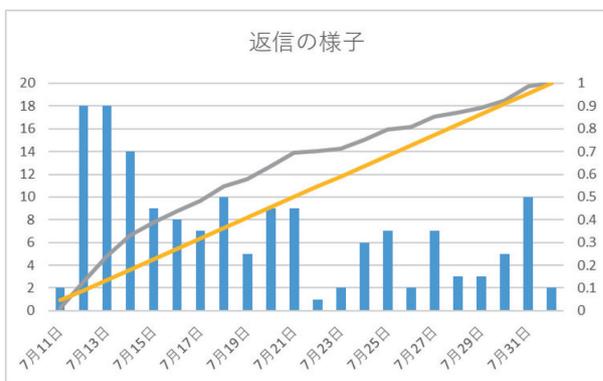
- 1) 平成 29 年 6 月 1 日現在の満 20～65 歳の町民を住民基本台帳より抽出
- 2) 系統抽出法により 300 名の候補者を抽出
- 3) 平成 29 年 7 月 10 日返信ハガキを同封し WS 開催案内を送付
- 4) 同年 7 月 31 日返信締め切りとする

結果は次の通りであった。

3.無作為抽出について

先行事例①でとりあげた、第4期京都市未来まちづくり100人委員会にて2012年に実施された「京都・未来まちづくりミーティング」の無作為抽出による住民参加の試みの数字を比較対象として示す。人口規模など条件が大きく異なるため、単純に比較することは難しいが、玉城町の返信率が6倍以上高いことが見て取れる。杉岡はこの京都市未来まちづくり100人委員会の課題について、3つの検討すべき課題があるとしたなかで「一つは『参加者の量的課題』である。すなわち、100人（実際は100名を超えている）の市民が参加している訳だが、この数字は約147万人いる京都市民から見れば、0.014%に過ぎない。5期（2年間メンバーが固定）すべてを合計しても500名前後であり、0.1%未満である。つまり、100人委員会の実施だけで市民協働の量的拡大には限界がある。[杉岡秀紀, 2016]」

と指摘している。



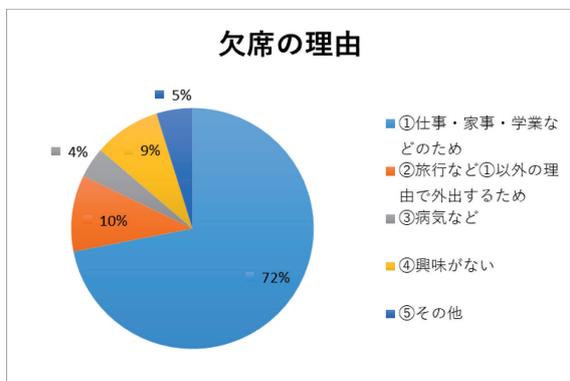
そこで玉城町での100人委員会を見てみると、案内状を送付した300名は人口の1.9%であり、玉城町の人口に対する100人のウェイトは0.639%と、この方法は量的視点で見ると政令指定都市などよりもむしろ小規模自治体に向いているといえる。また、返信率に関しても玉城町の場合半数を超える54.3%となっており、

京都市のものとは比べても高水準であることがわかる。今回はがきに返信者の氏名をあらかじめ差し込み印刷を行うなど、なるべく住民の負担を減らすという役場担当者の気配りが功を奏したものといえるかもしれない。

次に返信の状況の記録のグラフをみてみよう。平成29年7月10日に一斉に発送した参加の案内に同封した返信ハガキの消印の日付別にまとめたものである。棒グラフは消印日付のはがきの枚数、実線の折れ線グラフは総返信数163に対する累積比率を、点線のものは等間隔に返信された場合を仮定したものとなっている。

発送翌日の消印での返信からはじまり、最初の数日に多くの返信が投函されたのち、大きく投函は減少し、そのまま続いている。20日間の返信期間のうちの前半の10日間で約

70%の返信が完了していることが見て取れ、締め切り日である7月31日に若干の投函がみられるものの、基本的には期間の前半に大部分の投函が完了していることがわかる。



今回、返信ハガキに欠席の場合に欠席の理由を尋ねる項目を設定しており、その回答をグラフ化したものがある。多くは①の「仕事・家事・学業などのため」で72%を占めるが、④の「興味がない」も13.9%をし

3.無作為抽出について

めていることは見逃せない。やはり、地方自治に対する無関心の層が一定程度見られることは否定できないと考えられる。⑤のそのほかの中には、「妊婦である」「障害がある」「入院中である」などの身体上の理由がみられた。

参加者の属性	参加者数
自治区長（招待）	18名
文化協会、各種団体（招待）	66名
一般公募住民	17名
無作為抽出住民	10名
その他（学生など）	4名
合計	115名

今回のWSについては、無作為抽出住民だけでなく、町内の各種団体に声かけをして参加者を募集した。その際に団体の選定にあたっては、平成27年度に「第5次玉城町総合計画・後期・基本計画」を策定した際にヒアリングを行った団体をベースに声かけを行った。声かけ団体のジャンルは、自治区、各種文化団体、ボランティア団体、健康・食育、地域福祉、農業、商工業、子育て、高齢者福祉、介護ボランティア、交通・防災・防犯、歴史・観光・文化、青少年育成、人権、地域福祉など109団体に参加の呼びかけを行った。呼びかけの方法としては、1次的には役場の担当部局を経由して行い、担当部局とつながりの少ない団体については郵送によった。結果125名の参加となったが、内訳は次のようになった。（※無作為抽出で「出席」と回答した住民のうち1名当日欠席）

本事業では、第1回と第10回について「玄甲舎利活用100人委員会」と銘をうち、無作為抽出住民を含むWSを実施した。平成30年3月3日に実施した第2回100人委員会（第10回WS）についても、同様の無作為抽出プロセスを実施し、結果は次の通りであった。

第2回では同じく300名に案内を発送し149名から返信を得た（49.7%）。またその中で参加の回答は14名で発送者数に対して4.7%であった。第1回100人委員会と比較すると、返信数は5%程度減少したものの、参加者数は微増であった。大まかにみて2回とも約半数返信があり、そのうちの1割程度が出席する、という状況であった。参加者などの詳細は「2. WS実施記録」を参照いただきたい。

第2回では同じく300名に案内を発送し149名から返信を得た（49.7%）。またその中で参加の回答は14名で発送者数に対して4.7%であった。第1回100人委員会と比較すると、返信数は5%程度減少したものの、参加者数は微増であった。大まかにみて2回とも約半数返信があり、そのうちの1割程度が出席する、という状況であった。参加者などの詳細は「2. WS実施記録」を参照いただきたい。

今回のWSの実施に関しては、多くの部分において「フューチャーセンター」という概念を取り入れている。フューチャーセンターとは『「未来を創造する対話の場」であり、企業・政府・自治体などの組織が、中長期的な課題解決を目指して、様々な関係者を幅広く集めて、協力的かつ創造的な対話を通じて、新たなアイデアや問題の解決手段を見つけだし、その実現や実践での相互協力を促す場である。特定少人数の委員会ではなく、多様かつ多数の住民の参加を促すことにより、多くの暗黙知を終結させることに重きを置いている。「単なる形式的な「住民説明会」などでなく、住民と一緒に計画からできないか。住民も行政にまかしばなしにしたり単に文句を言うだけでなく、主体的に責任をもって関わる。行政や専門家はそれを踏まえて専門的な見地から計画を具体化する。そんなプロセスの中でいろいろな立場の人の心が通うコミュニティを再生し、明るく豊かな地域社会を構築しなそう。」[中野民夫, 2001]まさに、この点から今回の玉城町における住民参加プロセスはデザインされた。

4. アンケート結果

(1) アンケートの内容

今回の事業においては、「人を対象とした研究」として皇学館大学研究倫理委員会において「研究の目的及び概要」「研究の対象」「研究の手法」「実施計画」「倫理的配慮」等について審査を受け、許可を得たうえで実施をしている。

2回～9回のWS実施に当たっては、資料1の研究同意書を示したうえで、研究実施者より毎回必ず口頭で説明を行ったうえで全員の同意を確認し、録音機、録画機による採録を開始している。第1回、および第10回となる100人委員会については、録音録画は行っていない。えんたくんシートの記載内容のデータ化を行っている。また、WS実施後資料2のアンケートを実施して、参加者より回答を得ている。

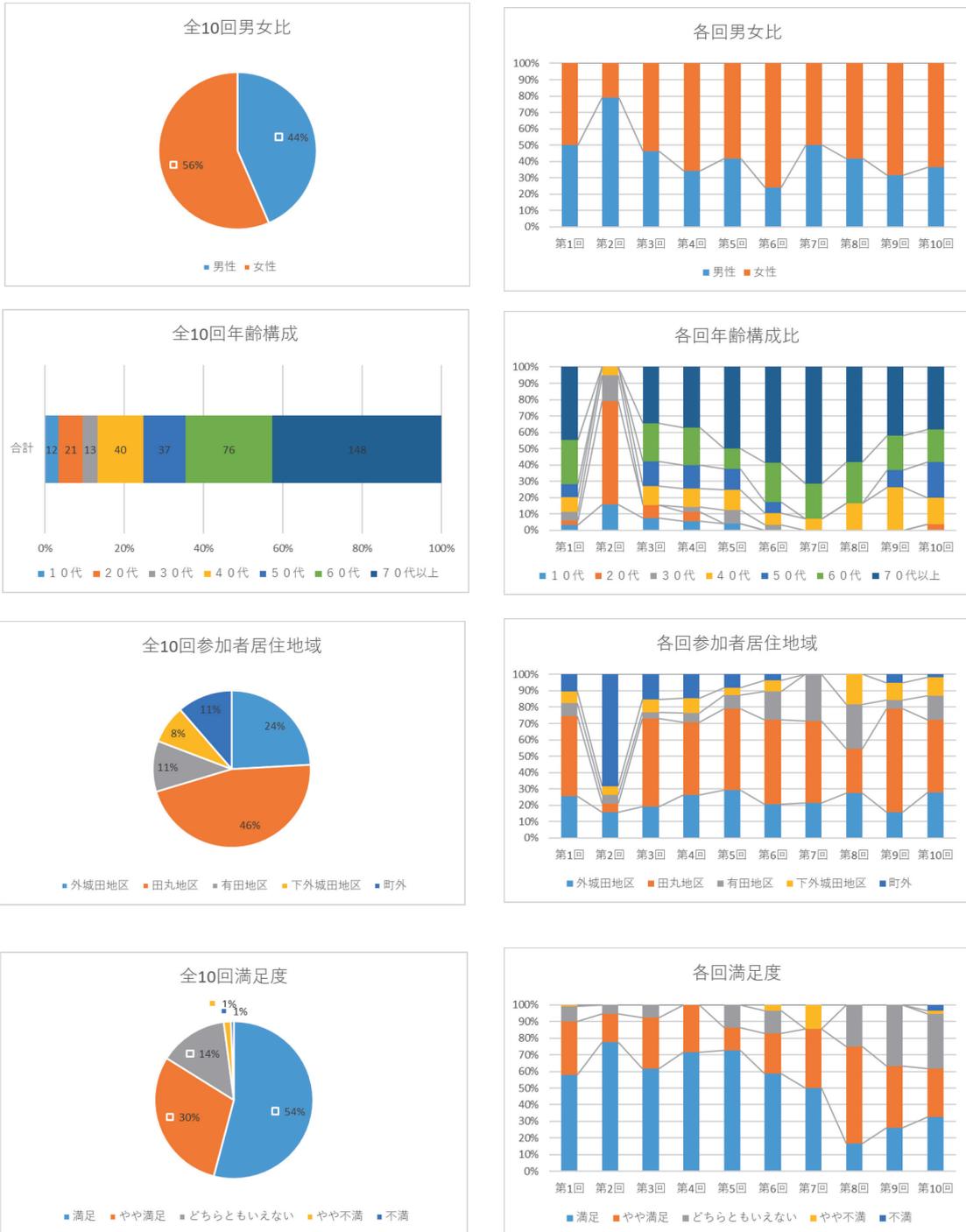
アンケート質問項目は8項目（最終の第10回のみ⑦を除く7項目）で、内容は次のとおりである。

- ① あなたの性別をお教えてください
- ② あなたの年齢をお教えてください
- ③ お住いをお教えてください
- ④ 普段のお仕事をお教えてください
- ⑤ 本日の内容についての満足度をお教えてください
- ⑥ 満足度の理由をお教えてください（自由記載）
- ⑦ 第2回100人委員会を今年度内に計画していますが、参加したいと思いませんか？
- ⑧ その他、ご意見がございましたらお聞かせください（自由記載）

4. アンケート結果

(2) アンケート結果

全10回のアンケートの結果は次の通りであった。



まず、全10回における男女の比率はやや女性の方が多かったものの、ほぼ半数ずつであった。各回はややばらつきがみられる。最も女性が多かった第6回は7割以上が女性であった。

4. アンケート結果

次に年齢構成であるが、全10回を通して60代、70代の参加者が多いことが見て取れる。この点については多くのまちづくりの現場で悩みの種になっている、まちづくりのプレイヤーの世代交代についての課題を顕著に表す結果となった。各回別にみていくと、当然ながら第2回の「ワカモノ・ヨソモノWS」が10代～20代のみで構成されており、反対に第7回が最も年齢層が高い。これは、第7回は平日木曜日の午後に開催していることも影響があるかもしれない。また、第1回と第2回（WSとしては第10回）の100人委員会を比べると、第1回の方が60～70代以上が多くなる結果であった。居住地域についてはグラフのとおりである。

WSに関する満足度については、満足とやや満足の「ほぼ満足している」集団が回を追うごとに減少する傾向がみられた。これはWS初期の「夢を語る」というような内容のものから、徐々に具体的内容になっていき、他人事（町がやってくれる）から自分ごと（地域運営組織で行う）という内容に、そしてプログラム全体のデザインも発散から収束へ向かっていったことも影響しているかもしれない。しかし、最も少ない第10回においても、60%以上の方が「ほぼ満足している」という結果であり、全体としては84%の参加者が「満足・ほぼ満足」と回答しているという結果となった。

（3）満足度の理由の自由記載の分析

今回の研究には、テキストマイニングと呼ばれる手法を用いて、WSの評価を試みている。その中で、今回のアンケートに関して設問の5である、「本日の内容についての満足度をお教えてください」と6の「満足度の理由をお教えてください（自由記載）」の関係を見ることで、参加者が評価するWSの要素とはどういうものか、ということをとらえる試みを行った。次項にて詳述する。

5. テキストマイニングによる内容の分析

今回の研究には、テキストマイニングと呼ばれる手法を用いて、ワークショップの評価を試みている。本報告書においては、二つの部分に分けてその分析を行った。まず一つ目はアンケートに関して設問の5である、「本日の内容についての満足度をお教えてください」と6の「満足度の理由をお教えてください（自由記載）」の関係を見ることで、参加者が評価するワークショップの要素とはどういうものか、ということをとらえる試みを行った。

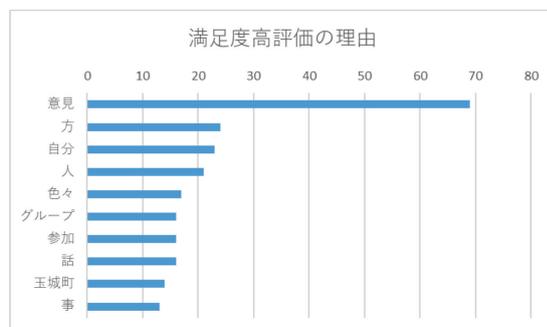
もう一つには、8月19日に実施した第1回の100人委員会に置いて、参加者が評価する玉城町の要素、そして課題点はどこか、ということである。分析には富士通エフ・アイ・ピー・システムズのテキスト型データ解析ソフトウェア「Word Miner[®]1.5」を使用した。分析の手順はいずれも次のように行った。

- 1) テキスト情報を解析ソフトウェアにかけ「分かち書き」を行う
- 2) 頻出のキーワードを抽出する
- 3) 頻出キーワードの中の特徴的なものについて、原文に戻りどのような文脈で使われているのかを分析する

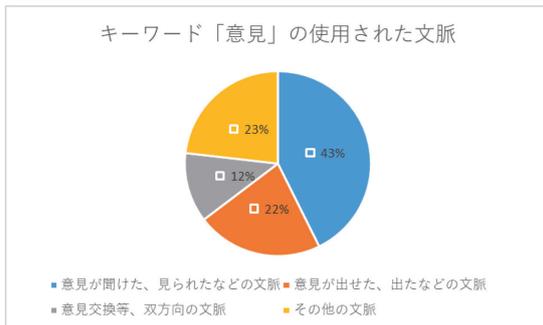
以上の方法で分析を行っており、定量的分析を行った後に定性的に分析を行う方法をとっている。順に検討する。

(1) アンケート満足度高評価の理由

まず、前述の通りアンケートは8項目で無記名にて実施し、総参加者354名中347名が回答した。満足度については、無回答を除き342名が回答し、そのうちの84%にあたる287名が「満足」または「やや満足」と回答した。そのうちの213名が何らかの理由を問6の「満足度の理由」に記載をしており、その内容を分析した。



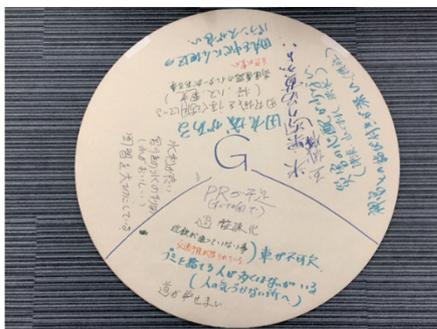
高満足度の参加者がその理由として書いたテキスト213件のうち、最も多く使われていたキーワードは「意見」であり、69名が82回使用した。その他のキーワードの使用数の数は表のとおりである。もっとも多く、そして2位と大きく水をあけて多かったキーワードである「意見」について、さらに分析を行った。「意見」というキーワードを使用した参加者の自由記載の文章をさらに検討すると、大きく分けて次の3つの文脈があることがわかった。それは「意見が聞けた、見られたなどの文脈」「意見が出せた、出たなどの文脈」「意



見交換などの双方向の文脈」「その他の文脈」であった。その中では「聞けた、見られた」などの内向きの方向を示す文脈が最も多く43%であった。グラフにて文脈の内訳を示す。

よって、ここから「意見が聞ける」「意見が言える」「意見が交換できる」という要素において、参加者はワークショップを好意に評価していることが読み取れる。

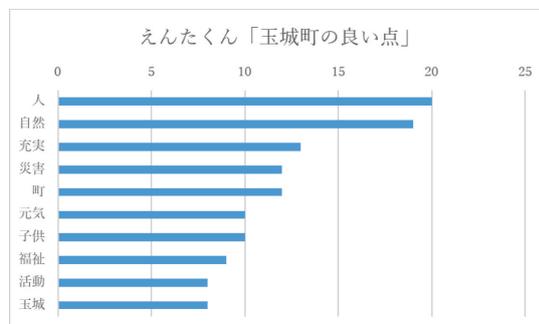
(2) 参加者が評価する玉城町の良さ、そして課題点

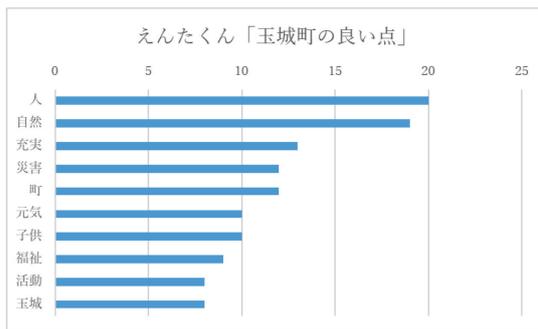


前述の通り、今回の一連のワークショップではその中の数回において「えんたくん」という段ボール製の円卓を使用して、その上に直接参加者自身に記録をとっていただいている。その内容についてテキストマイニングを利用し分析することによって、参加者の意図をくみ取ることができないか検討した。先の通り、第1回100人委員会において、前半部分で「あなたの思う玉城町のよい点、残念な点」を話し合ってもらい、

それをえんたくんシートに直接書き込みを行ってもらった。その全データをテキスト化し、同じくテキストマイニングを行った。

まず「玉城町の良い点」に関しては、使用頻度が上位であるキーワードとして「人」「自然」「充実」などがあつた。上位キーワードについて前後の文脈をさらに見てみると、まず「人」については20回使用されたうち「人がよい」など町民の人柄に言及したものが6ケース、「人が増えている」など人口増に言及したものが5ケース、「認知症について学んでいる人が多い」など福祉のことがらに触れたものが3ケース、「人とのつながりが深い」などつながりについて言及したものが2ケースであった。次に、「自然」というキーワードであるが、19ケース中15ケースでは自然の豊かさのことに言及し、残りの4件については自然災害の少なさに言及していた。余談にはなるが、玉城町はこのワークショップの約2か月後に台風21号により、大きな被害をうけることになる。このワークショップの開催がそのあとであれば、結果は変わっていたかもしれない。





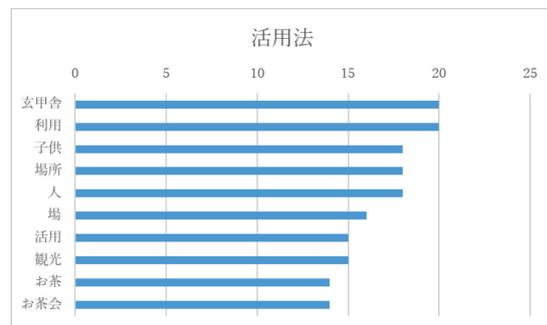
3 番目には「充実」というキーワードであったが、13 ケース中「福祉が」というのが 5 ケース、「学校や学童」が 3 ケースであとはまちまちであった。

まとめると、玉城町民の玉城町についてのプラスイメージはワンフレーズにすると「町民の人柄がよく、自然が豊かで、福祉が充実

している。」というものであった。これは、最頻出キーワードの再頻出文脈をつなげたものである。

次に残念な点であるが、良い点でもでていた「人」が 1 位のキーワードで、文脈としては「消極的である」など人柄に言及したものが 5 ケース、人材不足、マナー、無関心がそれぞれ 2～3 ケースであとはばらけた結果となった。2 位は「交通」で 9 ケースのうち、7 ケースが公共交通の不便さに関してであり、残りの 2 ケースは交通事故の多さに言及していた。第 3 位は「公共」であり、これは 2 位の「交通」とセットで使われているケースが多く、8 ケース中 6 ケースが上と同じ公共交通の不便さによるものであり、2 ケースが公共施設に関するもの、古い、ない、というものであった。まとめると町民の考える玉城町の残念な点は「公共交通が不便で町民の人柄はよいものの、反面消極的、閉鎖的、無関心であったりもする」といったところであった。

最後に、「良い点」「残念な点」を踏まえたうえで玄甲舎の利活用方法についてであるが、次のとおりであった。使用頻度の高いキーワードのうち「玄甲舎(20)」「利用(20)」「場所(18)」であるが、「玄甲舎」についてはほぼすべての文脈が主語として「玄甲舎を～に」という文脈で使われており、「利用」については、すべてが「～に利用する」とい



う使われ方をしている。また、場所についてもほぼすべてが「～な場所にする」という使われ方をしているため、分析からは割愛する。同様に、「人(18)」「場(16)」「活用(15)」についても特定の文脈でしか使われていないため、今回分析の対象とはしないこととする。そのうえで「子供(18)」「観光(15)」「お茶(14)」について分析すると、まず「子供」では 18 ケース中 8 ケースが「宿題を見てあげる場にする」「日本文化を教える」など教育に関するもの、7 ケースが「遊びに行きたくなる場所に」など子供たちが集う、ということに焦点をあてたものであった。次に「観光」であるが、15 ケース中、「観光案内所の設置」「観光案内のバス」「観光案内板」何かしら観光案内に関するものが 9 ケース、「田丸城と」など、ほかの歴史文化資源などとのセットでの活用法に言及するものが 4 ケースであった。最後に「お茶」に関してであるが、「気軽にお茶を飲める」「お茶を通して婚活」など、新しいス

タイトルでのお茶の楽しみ方に言及しているものが8ケースと多く、「作法を学ぶ」など伝統的なお茶のスタイルでの利用が4ケースであったことに対して優位であった。このことは、従来の専門家を集め委員会スタイルでの検討に比すると、広く参加者を募集したワークショップスタイルであったことに意義があったと考えられる。

おわりに

全 10 回のべ 354 人にご参加いただいた一連のワークショップが終了した。事業と研究はここで終了となるが、玄甲舎の利活用はここからがスタートである。玄甲舎が町民に広く愛され、活用される施設になることを切に願う。また、筆者が得た多くのデータの本格的な分析もこれから始まるものが多い。

町民のみなさまの多大なご協力と林裕紀課長をはじめとする玉城町総合戦略課担当職員のご努力もあり、ご参加の 8 割を超える方にご満足をいただくことができたわけであるが、課題がなかったわけではない。一つには参加いただいた町民の方々のうち 60 代以上のシニアの方が 6 割以上を占めたことである。平成 27 年 10 月の三重県統計書によると、玉城町の人口 15,267 人中、高齢人口は 3,956 人の 25.9% であるので、今回の 350 名が玉城町の正しい縮図であるならばシルバー世代は約 90 人程度であるはずであるが、実際は 2 倍以上の 200 名以上であった。もちろん、アクティブ・シニアは大歓迎であり健康寿命の延伸は町の財政などの面からみても大切な要素である。しかし、今回のように未来に向けた対話を行う時に、その未来についてのステークホルダーは誰か、と考えればおのずと答えは決まってくるはずである。

筆者の最近の研究、実践活動のキーワードの一つに「自己決定」がある。この 100 年急激に増え続けた人口がピークを迎え、だれも最適解を持たない新たな時代の幕開けの約 10 年が今である。その中での舵取りには、「自己決定」という要素がないと、自分ごととして取り組めず、誰も責任をとることができない。「自己決定」とは、すなわち「自分ごと」として課題をとらえ、住民がそれぞれの暗黙知を持ち寄り、対話をし、自分たちの行く末を自分で決め、自分で実施するという「覚悟」である。そして筆者ら研究者であり実践者である者の使命は住民の「自己決定の支援」と考えるにいたった。そのためのワークショップ等の対話手法の研究であり、実践であると考え。今後も引き続き実践し、実践から謙虚に学び続けていきたいと思う。

平成 30 年 3 月 16 日
皇學館大学教育開発センター
助教 池山敦

※本報告書の本文の一部は平成 30 年 2 月 23 日発刊の三重県地方自治研究センター機関紙「地方自治みえ」に寄稿した「新しい時代のヨリアイその 2～玉城町における歴史的建築物の利活用計画策定に関する住民参加プロセスについて」について大幅加筆、修正を行ったものです。

資料編

研究協力にあたっての同意書

今回のワークショップは、包括連携協定に基づく玉城町から皇學館大学への委託研究「住民参加型まちづくりワークショップにおける対話プロセスの研究」の一環として行われています。以下の文章をよくお読みいただき、同意いただけます場合にはご署名をお願い致します。

皇學館大学

① 研究の目的

この研究では、玉城町において「玄甲舎」を活用したまちづくりに関するワークショップを実施し、みなさまのお話し合いの「プロセス」がどのように進んだのかを分析させていただくことを目的としています。

② 研究の方法

みなさまのワークショップでのお話し合いの内容を IC レコーダー、カメラにて録画したものを元に分析を行います。また、付箋紙や模造紙などの記載も電子化し分析いたします。

③ 研究で起こり得る不利益やリスクとその対処法について及び人権への配慮について

この研究に参加していただくことにより、何ら危険は伴いません。ワークショップ中に不快感、不適切さなどをお感じになりましたら、お気軽にお申し出くださいませ。

④ 個人情報の保護について

皆様のお話し合いの記録については、匿名化して分析をいたしますので、どなたがどのような発言をされたかということが外部に出ることはございません。本研究では報告書を作成いたします。また論文等で発表する場合にも個人が特定されることは一切ありません。個人情報、プライバシーが守られることをお約束いたします。

⑤ 研究へのご協力は皆様の自由意志にてお願いしたいと思います。

研究へのご参加をお断り頂いてもいかなる不利益もございません。また一旦ご参加いただいても、いかなる段階でも研究へのご参加を取りやめることができます。その際にも不利益は一切ございません。

⑥ 研究結果について

研究結果につきましては、報告書を今年度中に玉城町に提出する予定ですが、必要な場合には配布させていただきますので、お申し出くださいませ。

私は上記内容について理解した上で、この研究に参加することに同意いたします。

平成 年 月 日

署名 _____

②満足度の理由をお教えてください。

③第2回100人委員会を今年度内に計画していますが、参加したいと思いませんか？

1. 参加したい 2. 参加したくない 3. どちらともいえない

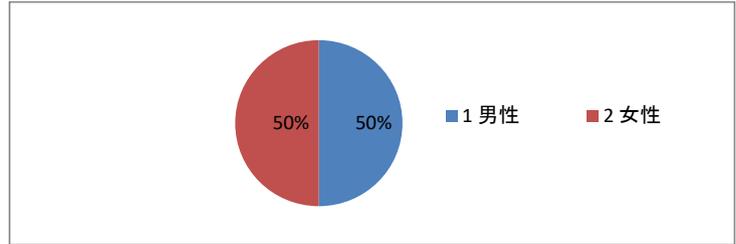
(3) その他、ご意見がございましたらお聞かせください
(自由記載)

ご協力ありがとうございました。

「第1回玄甲舎利活用100人委員会」アンケート結果

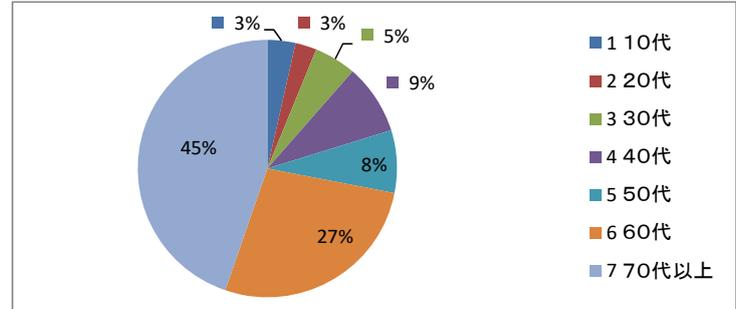
Q1 あなたの性別をお教えてください

1 男性	57	50.0%
2 女性	57	50.0%
合計	114	



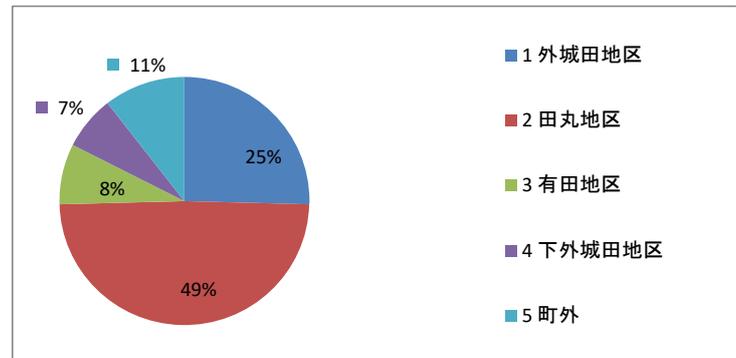
Q2 あなたの年齢をお教えてください

1 10代	4	3.5%
2 20代	3	2.6%
3 30代	6	5.3%
4 40代	10	8.8%
5 50代	9	7.9%
6 60代	31	27.2%
7 70代以上	51	44.7%
合計	114	100.0%



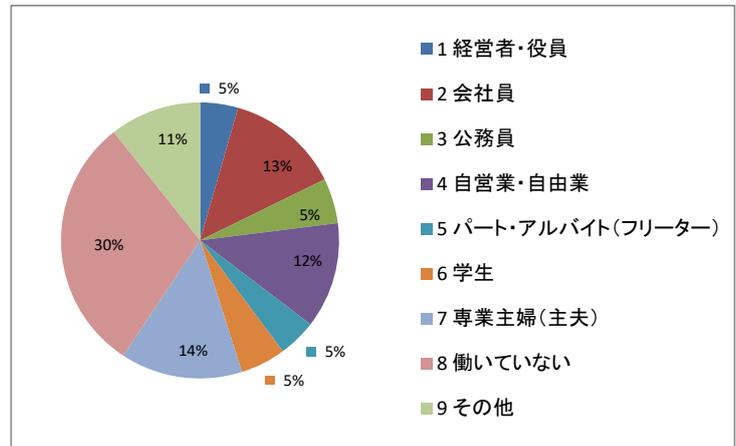
Q3 お住まいをお教えてください

1 外城田地区	29	25.4%
2 田丸地区	56	49.1%
3 有田地区	9	7.9%
4 下外城田地区	8	7.0%
5 町外	12	10.5%
合計	114	100.0%



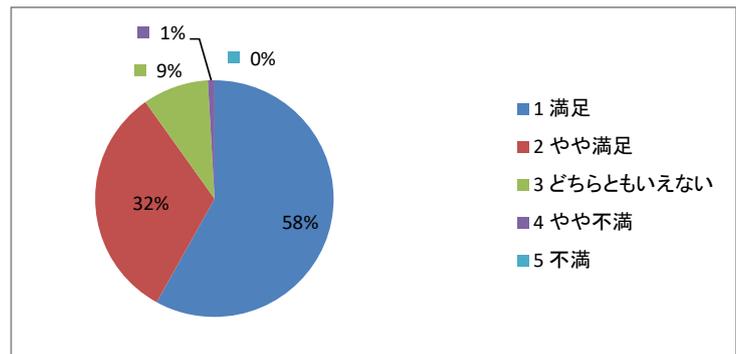
Q4 普段のお仕事をお教えてください

1 経営者・役員	5	4.4%
2 会社員	15	13.3%
3 公務員	6	5.3%
4 自営業・自由業	14	12.4%
5 パート・アルバイト(フリーター)	5	4.4%
6 学生	6	5.3%
7 専業主婦(主夫)	16	14.2%
8 働いていない	34	30.1%
9 その他	12	10.6%
合計	113	100.0%



Q5 本日の内容についての満足度をお教えてください

1 満足	65	58.0%
2 やや満足	36	32.1%
3 どちらともいえない	10	8.9%
4 やや不満	1	0.9%
5 不満	0	0.0%
合計	112	100.0%



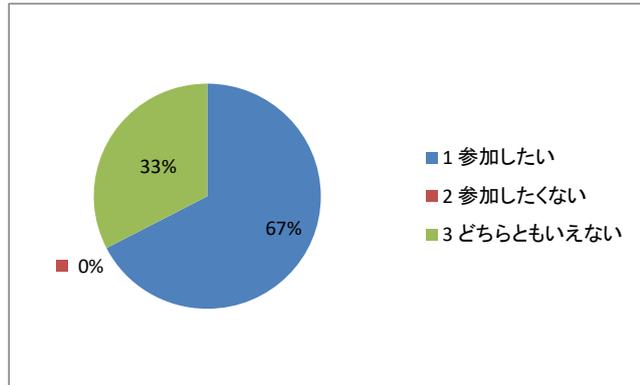
Q6 満足度の理由をお教えてください。

- 1 100点満点
- 2 100名余りの考えが、自分の思っていることも含め、良かった。参考にできた。
- 3 5人1組なので、話がやりやすかった。
- 4 委員のお互いのフリートーク時間がなかった
- 5 意見が出やすかった。
- 6 意見も活発に出て、良い所・残念な所、ではどの様に玄甲舎を展開していくか、考える事が出来た。改めて、玉城の事を見つめ直す機会となりました。
- 7 いろいろ工夫して頂き、完成が楽しみです。学生さんのさりげない補助も実に気持ちがよかったです。
- 8 色々ないけんが聞けてよかった
- 9 色々な意見が出て、自分でも思い付かない事がわかった
- 10 いろいろな人と話し合えたこと、いろいろな話し合いの内容がみれたのがおもしろかった。
- 11 いろいろな人のイケんが聞けてよかった。ただ若い人が少ないように思いましたので少し残念でした。
- 12 色々のはなしが出来良かった。
- 13 いろんな方々との話合が出来良かったです。
- 14 いろんな方々のご意見や、自分が知らないことをきくことができた。ワークショップの手法が、楽しめるものだった。
- 15 いろんな人の意見が聞けた。皆さんがそれぞれのお考えをもってみえて関心度の高さがうかがえた。数多くの人々の意見をふまえてより良い方向にもって行ってほしい。
円卓を囲んでの5人ワークはとても良かったです。他の4人の方の様々な意見や思いが聞けてとても良い時間となりました。玄甲舎
- 16 というブレないテーマを主としてのワークショップを通して玉城町というものを改めて知る機会となりました。ありがとうございました。
- 17 大勢の方の案が聞けた
- 18 お話の進め方(自己紹介)のカードやえんたくんなど楽しくわいわいできて良かったです。
- 19 思った事が発言できた
- 20 会の意見を見て回りましたが、こんなにもあるのかと思う位、積極的に出ていた、もっと読みたいが時間が無かった！！残念で～
- 21 活発な意見が出てきて、よい話し合いだった。他のグループの意見を見られて新たな気付きがあった。
- 22 グループ協議があって、自分の意見が言えたこと。
- 23 グループ内でスムーズに話し合いができ課題に向けて意見がまとめられたから
- 24 グループ別の為に自由に発言が出来た。
- 25 グループワークで玉城の良いとこがしや残念なところの話し合いが楽しくできた。他のグループの意見を知ることで、改めて自分達がやりたいことが見つかった。
- 26 経験豊富な方々から様々な意見、知識をいただいた。進行の上手さ、意見量等から自分へのはんせいとして、やや満足とする。
- 27 玄甲舎が出来ていろいろ催しものがあるのを楽しみにしている。
- 28 玄甲舎の活用のアイデア良い。
- 29 玄甲舎の見学もしているが修復についての説明をもう少し聞きたかった。
- 30 玄甲舎利活用のために、まず町民の意見を広く聞く本日のワークショップは大変よかったと思います。あんなこと、こんなこと、かわりたいたいというビジョンが広がりました。
- 31 この方法でのワークショップがとても面白かった。皆様の考えて見えることがわかって勉強になった
- 32 今回の内容で良かったと思います。
- 33 様々な立場の方の色々なご意見が聞けて勉強になりました。
- 34 参加者が多く、いろいろな案が出てよかった 思っている事はほぼ同じだと思われた
- 35 時間が少なく、参加者の意見が分からない。それなりの時間が必要。
- 36 自分だけでは思い付かないようなことがたくさん出てきた
- 37 自分の住む地域について、興味のある人、関心のある人が多く、意外な部分があったので、それだけでも、十分満足です。本日の状況だけ見ても、より良い町になると感じています。
- 38 地元、住んでいる人ならではの“声”がきけたため
- 39 自由会話でよかった
- 40 自由に意見を出せた。他人の考えを聞く事が出来話し合いの参考になった
- 41 自由に活発な意見が言えました。
- 42 住民の方が町のよい点・悪い点を共有することで、問題意識や郷土愛が醸成されてよかったと思う
- 43 住民の方の意見を聞くことがあまりないので
- 44 少人数のグループで意見が言いやすかったです
- 45 積極的な発言がされた。話しやすかった。
- 46 説明が解りやすかった
- 47 説明もよくわかりました。
- 48 全員参加の会でした。進行がとても面白かったです。
- 49 大変満足しました。
- 50 沢山の意見が聞けて良かった。知らなかった事も知る事が出来満足。
- 51 たくさんの方とお話ができてたのしかった。色々ないけんをきけてよかったです。自分では気がつけないところもあったのですごくよかったです。
- 52 たくさんの人に出会えてうれしかったです。玉城のいい所も発見できました。
- 53 楽しかった。
- 54 玉城町に対する思いは皆同じ？これを機会にもっと玉城町を良くするために最善を尽くしたい。
- 55 玉城町の良い所、その他の思い当たる点で玄甲舎につなげるのに無理があったように思う。
- 56 町に対する参加者の意識の高さを感じた。町が他の機関と連携して町を盛り上げていこうとする意欲を感じた。
- 57 町人様々な意見を知ることができた。
- 58 町の発展についてみなさんの意見を聞く事が出来て玉城の未来に夢を持つことが出来うれしくなりました
- 59 町民どうしの意見が聞けて共通する問題意識があることが分かった。
テーマが少し切れて、玄甲舎の主体性を把握できずに終了してしまいました。お茶室にリレーしてはるく利用するにせ制販かのつ、不登
- 60 も限られる。でも範囲を広げてしまうと茶室の文化財としての保存方法がむずかしいかも知れない。これからの課題になりそうです
- 61 はあ～と云う意見や考えを知ることができた まちづくりという自分の仕事に応用できる

- 62 初めて会った人と忌憚ない意見交換が意見交換ができた
 63 話し合いで済んだ。
 64 比較的気楽に参加出来た。
 65 人との交流ができた。町の人でも顔は知っていても話をした事がないが交流できる。
 66 普段あまり考えないテーマを話し合ったり、楽しい時間を過ごせたとします。どんなふうになっていくのか今後が楽しみです。
 67 普段お話をさせて頂く機会の少ない年配の方の貴重なお話し、意見を聞かせて頂けて良かった。
 68 他の人が思っている(感じ)思いが判った。良かった 町の良いところ、悪いところが目に見えたので良かった
 69 本日のようなワークショップ方式の集会は初めてで楽しかった。住民の意見を広く聞くには良い企画である
 70 皆様の意見が聞けた。
 71 みなさんの色々な意見が聞けて良かったです
 72 ゆったりした時間の取り方がベタ
 73 良い手法で意見が出しやすかった。
 74 ワークショップ形式で自由に発想、語り合えた。
 75 ワークショップの進行を上手にリードしてもらったからやりやすかった。
 76 割と楽しく参加出来た。

Q7 第2回100人委員会を今年度内に計画していますが、参加したいと思いますか？

1 参加したい	60	67.4%
2 参加したくない	0	0.0%
3 どちらともいえない	29	32.6%
合計	89	100.0%



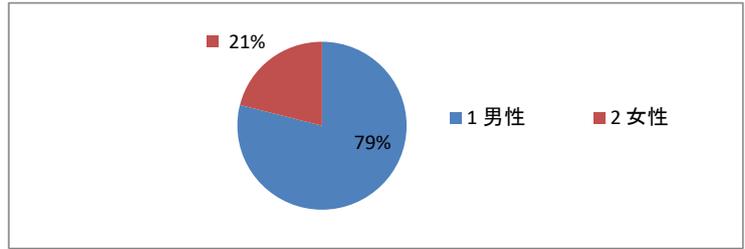
- Q8 その他、ご意見がございましたらお聞かせください(自由記載)
- 1 ・玄甲舎に実際に見学したかった ・内容は、非常に満足しました ・学生の手伝いさんも、積極的に参加してくれて良かったです。
 2 ？の意見も多かったテーブルがありました。
 3 5年くらいまえからずっと玄甲舎のことが気になってたので、来れて良かったです。知らない方ともお話がスムーズにできる進行はさすがだと思いました。
 4 アピールを！！情報発信を！！より多くの人に情報発信を！！
 5 いろいろな意見が楽しかった、私達も茶道を研鑽しているの、とても興味がある。よい玄甲舎を楽しみにしています。
 6 多くの意見を聞いて、より良い玄甲舎を作って頂きたい。
 7 多くの方が参加あり、関心があるのではと思います
 8 会議のテーマをもう少しぼけて話合も良いのではないのでしょうか！！
 9 各グループの意見をまとめて町民に発信してほしい。活用度合を示してほしい。
 10 固い話し合いだと思っておりましたが、全員が意見を出しあって選んでいく会議でした。今までにない会議の進め方なので、会社や地域、PTAの会議の参考にさせていただきます。ありがとうございました。
 11 国からの補助金を頂いての事業 負の財産にならない様利用を考ないと 今回の意見をまとめた物を読ませて頂きたい 同じ意見は、人数も書いて欲しい 玄甲舎の利用がうまくいきます様に願います
 12 玄甲舎というものを知らませんでした。このような素晴らしい建物の利活用について考える機会をくださりありがとうございました。
 13 玄甲舎の利用が多くの方にさせていただけるようにして下さい。
 14 玄甲舎を利活用するのであれば子供を通じて親にきてもらおうと思う。若い人はSNSではっしんが多いのでSNSをフルに活用するといいですね。
 15 皇学館大学の学生以外、若い人の参加が少なくて残念でした。若者の意見も反映される様な、委員会にして頂けたらと思います。
 16 皇学館のみなさんの行動に感謝、これからの活動にも協力したいと思いました
 17 ご準備が大変だったと思います。大変実りのある本日に楽しい時間でした ありがとうございます。
 18 今回のテーマ、玄甲舎については、せっかく改修したからには、管理継続が最も大きな課題である。管理体制、費用など
 19 今回のテーマの各班が書いた事を一覧にして欲しい！
 20 今後の町づくりの1つとするのか、目的がはっきり理解できない。商工会も参加しているのか、観光地(外よりの見学者や観光者)としての受入体制とか考えてゆくべき。
 21 自由討論の時間が必要。
 22 住民の意見が十分反映していただけるようよろしくお願いします
 23 修理中の生中継(ネット中継)をして欲しい 定点カメラとか 玄甲舎利活用は委員会があるけれど保存修復のスペシャリストは意見を言う場はあるのですか？
 24 少しでも玉城町によい方向に向かうといいと思います。少しでもお力になれば幸いです。
 25 ぜひ玄甲舎を玉城町の宝になるようにお願いします。観光客が楽しめる企画を
 26 外・庭が広いので玉城町は公園も少ないので是非自由に利用出来る拠点となって外からの人も来ていただき若い人老人子供も皆が気楽に集まれる公園を希望します。
 27 玉城町のいくつかの文化財をめぐるマップを作って ex)玄甲舎→奥書院→富士見門→天守跡→村山記念館→小林邸 周遊してもらおうかしてみたら
 28 玉城町の良いところがたくさんあるが、活用しきれていないことも多いのだなと感じた。観光面では地の利はあまりよくないので、他の市町と違ったアプローチが必要だと思う。
 29 田丸駅の南北を早く連絡してほしい

- 30 単発にしないようにしてほしい。
- 31 地域開発のキッカケにしたい。例・駅の通り(裏口)の通路を～。
- 32 トイレが和式しかなくて困っている人がいました。
- 33 ペンが書きにくかったです。
- 34 皆さんの希望される内容が、テーブルをみせてもらって、相通じているところ、全く気付かなかった所と、たくさん知る事が出来良かったと思いました。
- 35 みなさんの気持ちがわかった。これからの活動に利用したい。
- 36 有効な意見・方策もあると思いますので実現できるものは実現に向け努力してほしい。

玉城町「ワカモノ・ヨソモノワークショップ」アンケート結果

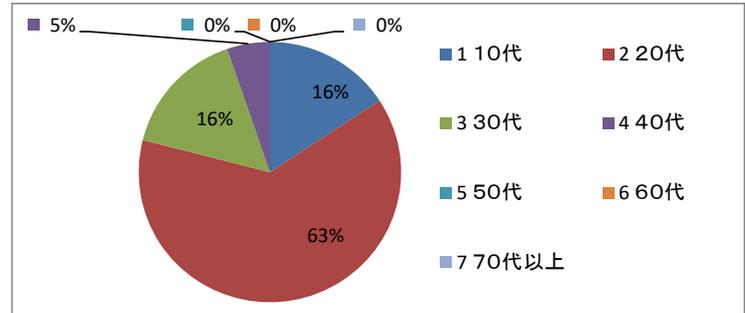
Q1 あなたの性別をお教えてください

1 男性	15	78.9%
2 女性	4	21.1%
合計	19	



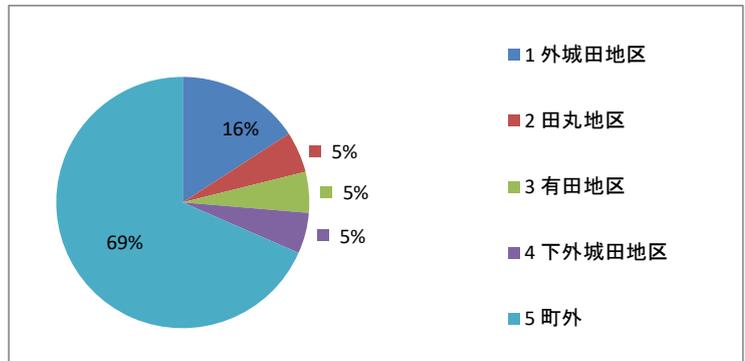
Q2 あなたの年齢をお教えてください

1 10代	3	15.8%
2 20代	12	63.2%
3 30代	3	15.8%
4 40代	1	5.3%
5 50代	0	0.0%
6 60代	0	0.0%
7 70代以上	0	0.0%
合計	19	100.0%



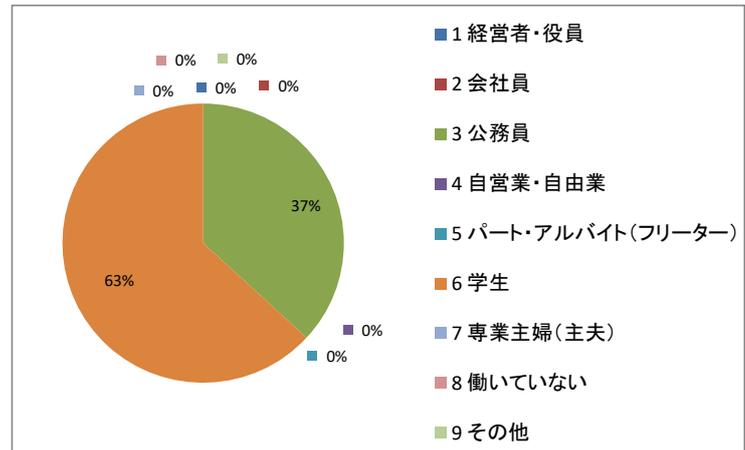
Q3 お住まいをお教えてください

1 外城田地区	3	15.8%
2 田丸地区	1	5.3%
3 有田地区	1	5.3%
4 下外城田地区	1	5.3%
5 町外	13	68.4%
合計	19	100.0%



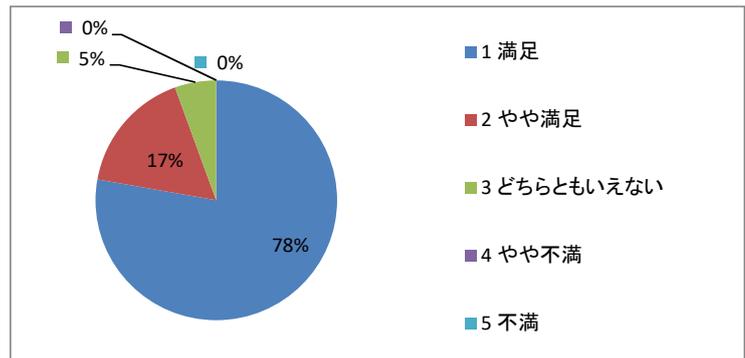
Q4 普段のお仕事をお教えてください

1 経営者・役員	0	0.0%
2 会社員	0	0.0%
3 公務員	7	36.8%
4 自営業・自由業	0	0.0%
5 パート・アルバイト(フリーター)	0	0.0%
6 学生	12	63.2%
7 専業主婦(主夫)	0	0.0%
8 働いていない	0	0.0%
9 その他	0	0.0%
合計	19	100.0%



Q5 本日の内容についての満足度をお教えてください

1 満足	14	77.8%
2 やや満足	3	16.7%
3 どちらともいえない	1	5.6%
4 やや不満	0	0.0%
5 不満	0	0.0%
合計	18	100.0%



Q6 満足度の理由をお教えてください。

少し時間が短かった

役所の考え、町長の考え、ヨソモノ(県外・県内)それぞれの考えを知ることができてよかった

玉城町に関わってくれることはうれしい

様々な学びや意見交換ができて満足です！！

若い方の発想がおもしろかった。

様々な学べる発言がとびかい自分の考えも発せられたから

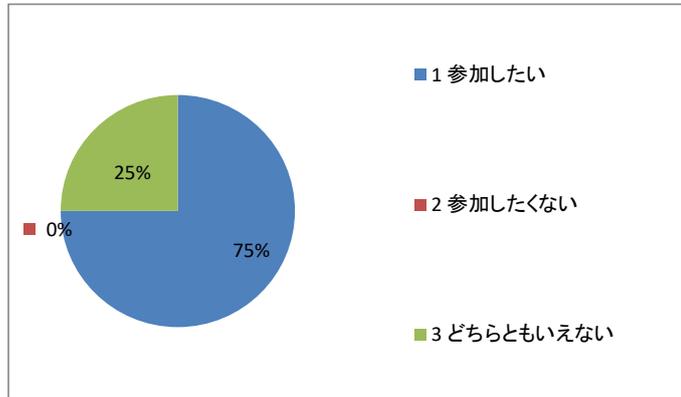
気付かないことを知れたのと、意見交換をできたので大変刺激を受けました。

ヨソモノ・ワカモノにしか出せないような意見などを聞くことができ、これからの活動に活かしたいと思った。

多くの人の意見を聞き、玉城町について詳しくなった。発表のスキルアップにもなった。

Q7 第2回100人委員会を今年度内に計画していますが、参加したいと思いますか？

1	参加したい	9	75.0%
2	参加したくない	0	0.0%
3	どちらともいえない	3	25.0%
	合計	12	100.0%



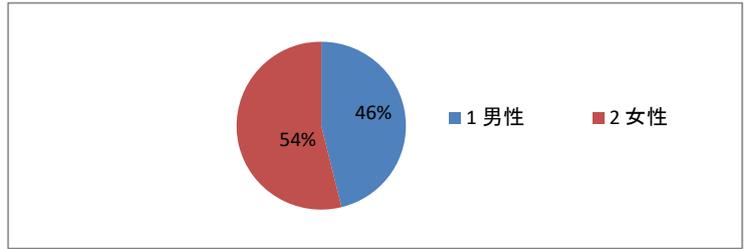
Q8 その他、ご意見がございましたらお聞かせください(自由記載)

ヨソモノ、役所の意見は住民などの意見を踏まえて作ったり考えていきたいと思った。若者らしい行政に関わってないからこそその意見を出していきたい。

玉城町「郷土愛を育むまちの寺子屋」WS アンケート

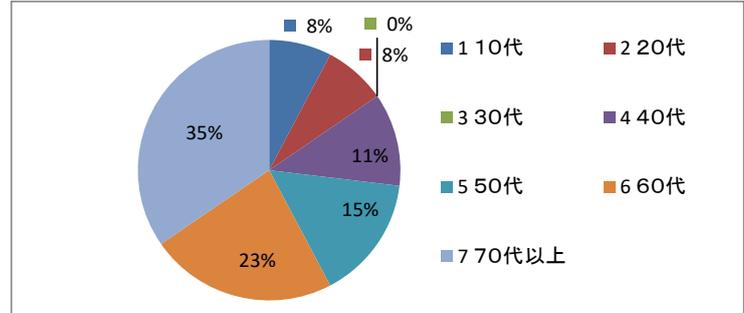
Q1 あなたの性別をお教えてください

1 男性	12	46.2%
2 女性	14	53.8%
合計	26	



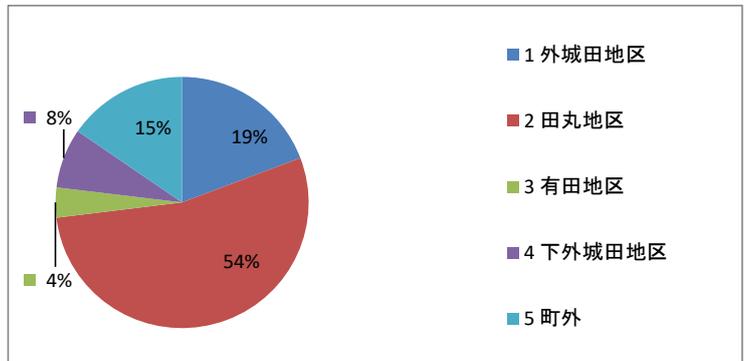
Q2 あなたの年齢をお教えてください

1 10代	2	7.7%
2 20代	2	7.7%
3 30代	0	0.0%
4 40代	3	11.5%
5 50代	4	15.4%
6 60代	6	23.1%
7 70代以上	9	34.6%
合計	26	100.0%



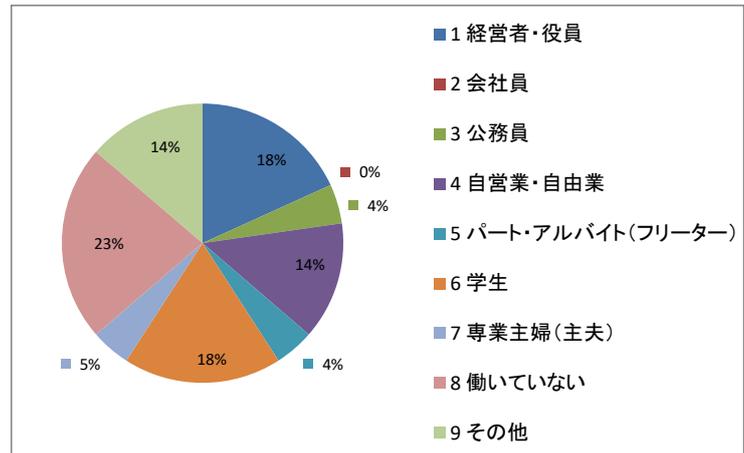
Q3 お住まいをお教えてください

1 外城田地区	5	19.2%
2 田丸地区	14	53.8%
3 有田地区	1	3.8%
4 下外城田地区	2	7.7%
5 町外	4	15.4%
合計	26	100.0%



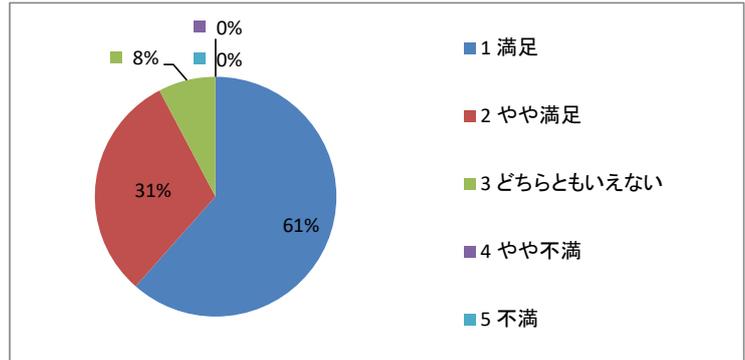
Q4 普段のお仕事をお教えてください

1 経営者・役員	4	18.2%
2 会社員	0	0.0%
3 公務員	1	4.5%
4 自営業・自由業	3	13.6%
5 パート・アルバイト(フリーター)	1	4.5%
6 学生	4	18.2%
7 専業主婦(主夫)	1	4.5%
8 働いていない	5	22.7%
9 その他	3	13.6%
合計	22	100.0%



Q5 本日の内容についての満足度をお教えてください

1 満足	16	61.5%
2 やや満足	8	30.8%
3 どちらともいえない	2	7.7%
4 やや不満	0	0.0%
5 不満	0	0.0%
合計	26	100.0%

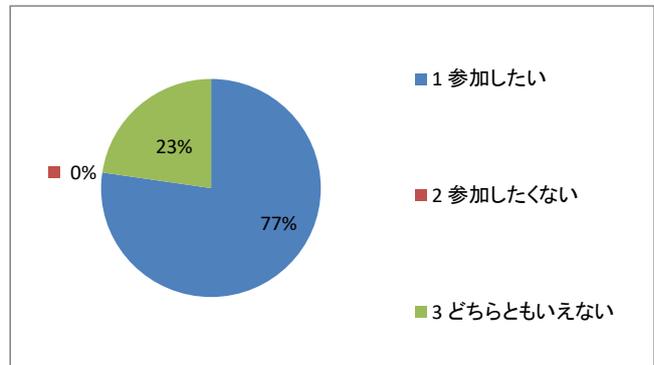


Q6 満足度の理由をお教えてください。

- 1 自由な発想で楽しい時間を過ごした。面白く話が盛り上がりました。
- 2 色々な意見が出てよかった。
- 3 いろいろな考えが出てたのしかった
- 4 思ったことを自由に書けたので満足しました
- 5 自由な楽しい意見が聞けた 話せた
- 6 どの程度話し合うのかわからず話が深まらなかったように思う
- 7 小グループでの話し合いで良かったです
- 8 楽しい催しが企画された
- 9 地元のいろいろな会で、活動されている方からのフリートークができた。
- 10 楽しかったけど、時間が足りなかった。
- 11 いろいろな考えを聞かせてもらい楽しく話げできました。
- 12 テーブル席の6人の意見は理解できた。しかし、その他のテーブル席の意見が判らない
- 13 茶について詳しくなった。意見を再確認できた。
- 14 ふだん接していない方と会話を楽しめた
- 15 会議の仕方が面白い
- 16 住民の方々から100人委員会の話し合いより具体的な話を聞くことができた。意見が新たな意見をひきだすなど、グループワークの大事さを感じることができた。
- 17 責任がなくなったと言える
- 18 グループ内で様々な方から自分では考えられないアイデアが沢山出してもらって考え方が改められた。
- 19 いろいろな所属の方の意見とアイデアが新鮮で面白かったです。ぜひ実現できると良いと思う企画でした。
- 20 話し合いが楽しかった。玄甲舎のことを少しだけ知ることができた。玉城町にある社会資源を知る機会となった。
- 21 第1回で出された幅広い意見から、「郷土愛を育むまちの寺子屋」というテーマで、より深い内容について話し合うことができ、具体的なことを考えることができたから。
- 22 もう少し時間がほしかった

Q7 第2回100人委員会を今年度内に計画していますが、参加したいと思いませんか？

1 参加したい	17	77.3%
2 参加したくない	0	0.0%
3 どちらともいえない	5	22.7%
合計	22	100.0%



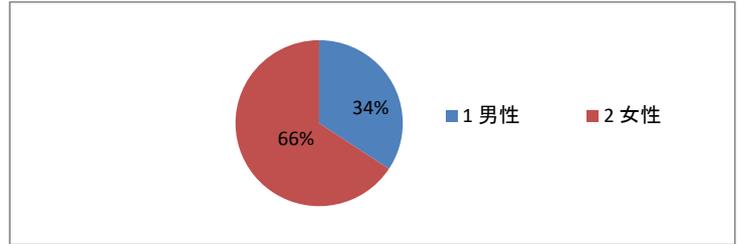
Q8 その他、ご意見がございましたらお聞かせください(自由記載)

- 1 100人委員会は、今日出席するまで知りませんでした。知らない人の方が多いのではないのでしょうか？
- 2 自由な発想のできる人が多く集まれるような工夫が必要だと感じます
- 3 玄甲舎を修復するにあたり、10年後、20年後の事が見えない単年の役場の考えなのか、先をどうしてゆくのか知りたい
- 4 グループ内だけで意見交換が終わってしまった為、他のグループの意見も見て聞きたかった。
- 5 ゆったりと話し合える人数で良かったです。もっと若い人もたくさん参加してくれると思います。
- 6 楽しく参加できました 学生さんももっと意見を出してほしかったです(きおくれた?)お茶にこだわる必要がないのにお茶の意見をたくさん出してしまいました

テーマ別委員会3「住民の健幸を作る集いの場」アンケート結果

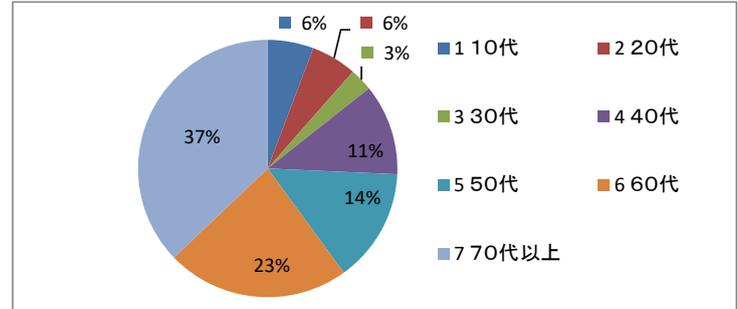
Q1 あなたの性別をお教えてください

1 男性	12	34.3%
2 女性	23	65.7%
合計	35	



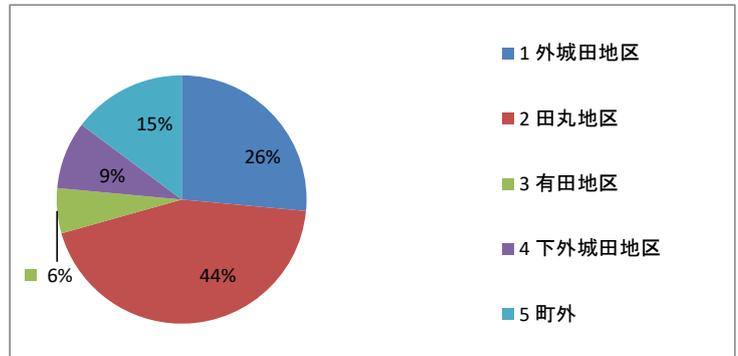
Q2 あなたの年齢をお教えてください

1 10代	2	5.7%
2 20代	2	5.7%
3 30代	1	2.9%
4 40代	4	11.4%
5 50代	5	14.3%
6 60代	8	22.9%
7 70代以上	13	37.1%
合計	35	100.0%



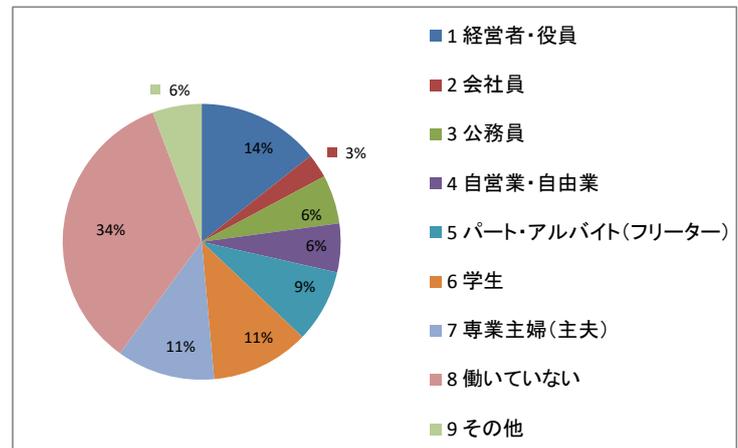
Q3 お住まいをお教えてください

1 外城田地区	9	26.5%
2 田丸地区	15	44.1%
3 有田地区	2	5.9%
4 下外城田地区	3	8.8%
5 町外	5	14.7%
合計	34	100.0%



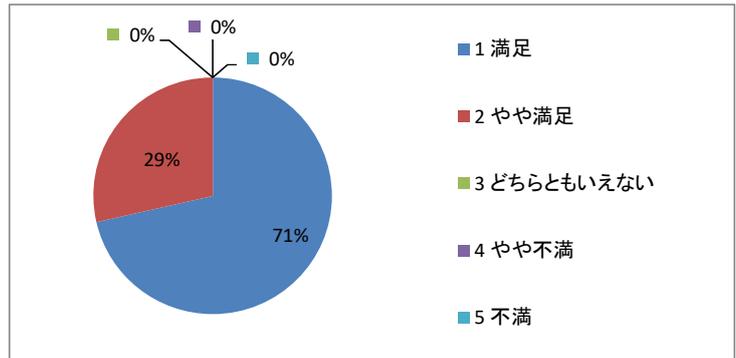
Q4 普段のお仕事をお教えてください

1 経営者・役員	5	14.3%
2 会社員	1	2.9%
3 公務員	2	5.7%
4 自営業・自由業	2	5.7%
5 パート・アルバイト(フリーター)	3	8.6%
6 学生	4	11.4%
7 専業主婦(主夫)	4	11.4%
8 働いていない	12	34.3%
9 その他	2	5.7%
合計	35	100.0%



Q5 本日の内容についての満足度をお教えてください

1	満足	25	71.4%
2	やや満足	10	28.6%
3	どちらともいえない	0	0.0%
4	やや不満	0	0.0%
5	不満	0	0.0%
	合計	35	100.0%

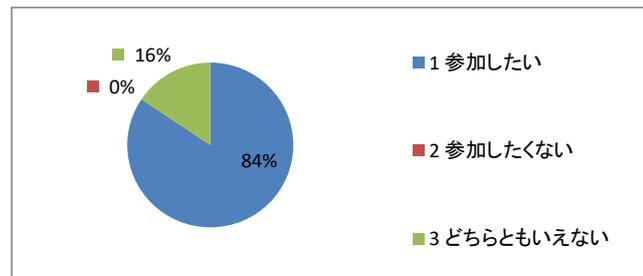


Q6 満足度の理由をお教えてください。

- 1 グループ討議が楽しかった。・住民はアイデアの宝庫だと感じた。
- 2 意見をだしつつ楽しい雰囲気で行えた。
- 3 色々な案が出て楽しかったです。
- 4 いろいろな意見がきけまして、又参加させてください。
- 5 いろいろな発想が聞くことが出来てとてもよかったです。
- 6 各テーブルでいろいろな意見を見れて参考になりました。お気軽作法教室が特に良かったです。
- 7 グループで好きなことを色々話せて、おもしろかった。いろいろなアイデアが出てよかった。
- 8 グループの方々との心の交流ができました。
- 9 グループの仲間と話し合いながら、進めていくのは楽しく、また、色々な意見を聞かせてもらい、良かった。
- 10 玄甲舎単独での活用方法だけでなく、玉城町全体をからめた活用方法を話し合いで様々な意見を出し合うことが出来たから。
- 11 玄甲舎の改修がどのようになるのかがもう少し事前情報がほしい(内部施設、設備など)
- 12 玄甲舎の活用が自分が考えている事と皆様と一致し、町民外の人にも知ってもらい利用していただきたい。
- 13 今回こういった会に初めて参加しましたが、いろいろな人の考え、意見があり楽しく会話することが出来ました。
- 14 様々な意見が出て来て改めて年上の方の意見が素晴らしいと思った。アイデアのあとに具体的な方法、方針がすぐに展開されており勉強になった。自分もそういう意見の出し方、話し方出来るように成りたいと思った。
- 15 自由に色々な意見が出て、出た意見がとおるとよいですね。
- 16 大変良かった。自由に意見も出せ。
- 17 たのしかったです。時間がたりないぐらいでしたが、短時間なので集中してできるのかなあ、とも思いました。
- 18 楽しかったです。自由な発想はいいですね。
- 19 楽しく多くのイベントを企画することが出来ました。
- 20 楽しく作業がすすみました。色々なアイデアが浮かんでくることがうれしい。
- 21 玉城町の方々のいろいろなかたちのいば所としてりようしてもらえたらなあ・・・と思いますが、観光目的の方、「お茶」メインの方いろいろ意見があり、勉強になりました。
- 22 玉城の知らないミリヨクを他の参加者さんから教えてもらいました。
- 23 テーマに対して将来が楽しみ。
- 24 発言が多く活発であった。まとめを学生の方にしてもらえてありがたかった。
- 25 話が広げられなかった
- 26 話のし易い形式で、いろいろ話がふくらんでよかったです。
- 27 フリーな意見こそ満足
- 28 皆様これからのことにとっても考えをお持ちで話しがはずみ、思ってもなかったこともあり有意義な時間でした。
- 29 メンバーがアイデアを楽しく出すことが出来ました。
- 30 もう少し時間を撮っていただいたほうがよりよかったと思います。

Q7 第2回100人委員会を今年度内に計画していますが、参加したいと思いますか？

1	参加したい	27	100.0%
2	参加したくない	0	0.0%
3	どちらともいえない	5	18.5%
	合計	27	100.0%



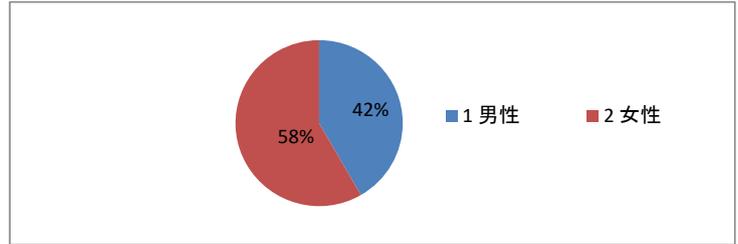
Q8 その他、ご意見がございましたらお聞かせください(自由記載)

- 1 意見交換の時間が実際には45分程度だったので、もう少し時間を録りアイデアを深めた話し合いをしてみたいと思った。
- 2 きたないくつ下であがらないでほしい、そんなことでつかわないでほしい、などお茶圧がすごい
- 3 グループワークの発表がなく、テーブルを回るといのは気分的にも緊張もなくやりやすいです。
- 4 玄甲舎の庭も含め整備の予定がどうなっていくのか知りたい。
- 5 参加者のSNS? 話が途中になったことを聞きたいときに交流できる場(ネット上)がほしい
- 6 すごい進行がきちんと時間通りでおもしろく、スムーズでした。先生さすが
- 7 その都度違ったグループに入り、良い意見に出会えてよかったです！！
- 8 たくさんの方々と1つの目標に向かって意見を出し合うことがすばらしいことです。
- 9 玉城町を案内してくるボランティアの人がいいと思います。
- 10 どうしても話す内容にかぶるモノがおおくなってきた→考え方や意見が固まってくる可能性がある。

テーマ別委員会3「集客交流を促進させる魅力発信拠点」アンケート結果

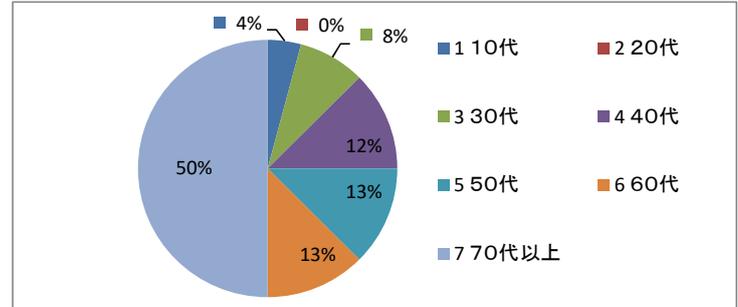
Q1 あなたの性別をお教えてください

1 男性	10	41.7%
2 女性	14	58.3%
合計	24	



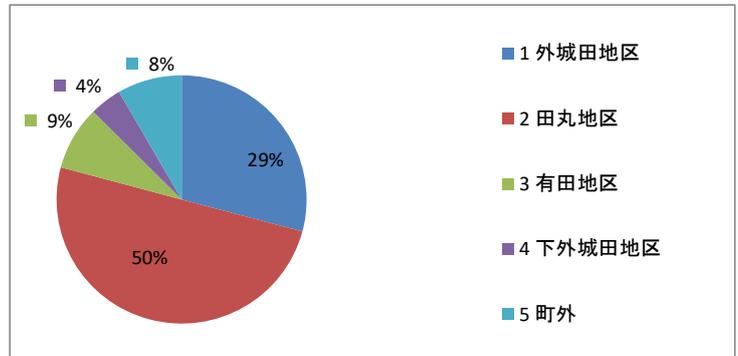
Q2 あなたの年齢をお教えてください

1 10代	1	4.2%
2 20代	0	0.0%
3 30代	2	8.3%
4 40代	3	12.5%
5 50代	3	12.5%
6 60代	3	12.5%
7 70代以上	12	50.0%
合計	24	100.0%



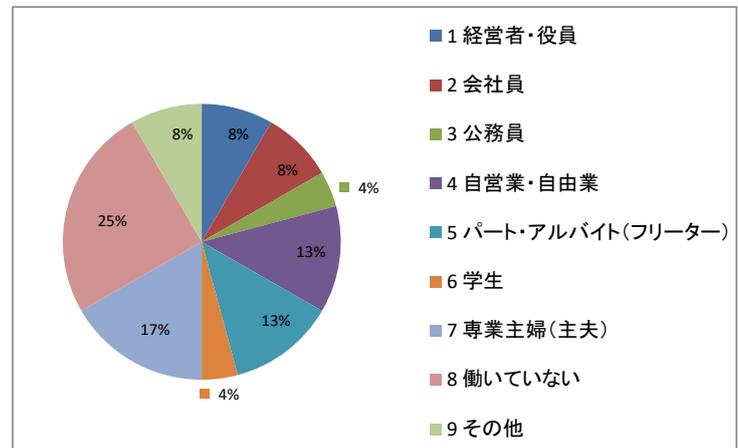
Q3 お住まいをお教えてください

1 外城田地区	7	29.2%
2 田丸地区	12	50.0%
3 有田地区	2	8.3%
4 下外城田地区	1	4.2%
5 町外	2	8.3%
合計	24	100.0%



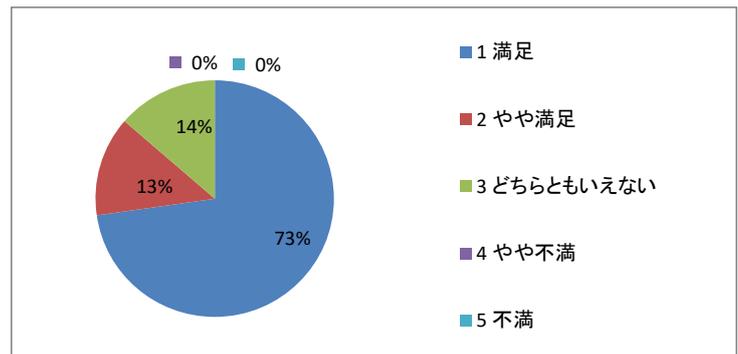
Q4 普段のお仕事をお教えてください

1 経営者・役員	2	8.3%
2 会社員	2	8.3%
3 公務員	1	4.2%
4 自営業・自由業	3	12.5%
5 パート・アルバイト(フリーター)	3	12.5%
6 学生	1	4.2%
7 専業主婦(主夫)	4	16.7%
8 働いていない	6	25.0%
9 その他	2	8.3%
合計	24	100.0%



Q5 本日の内容についての満足度をお教えてください

1 満足	16	72.7%
2 やや満足	3	13.6%
3 どちらともいえない	3	13.6%
4 やや不満	0	0.0%
5 不満	0	0.0%
合計	22	100.0%

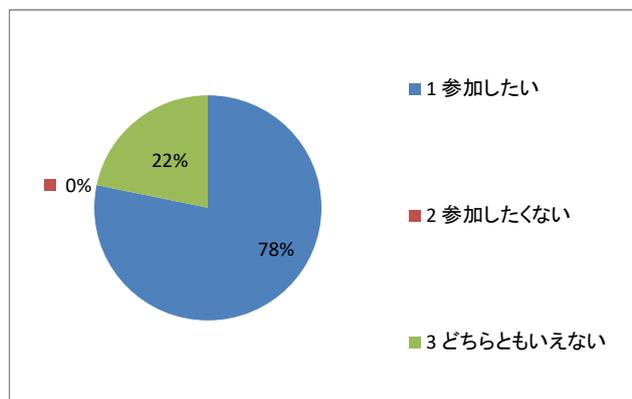


Q6 満足度の理由をお教えてください。

- 1 9月11日に参加した場合と同様、今日出た提案で今後利用されるのか不安の部分が多い。
- 2 色々話するうちに、玉城の新しいアピールがたくさん出てきたことが、非常に楽しく、うれしかったです。
- 3 いろいろな意見が出されて多くの方々とふれあいがあり、とても良いことだと思います。
- 4 色々な意見を聞いた
- 5 同じテーマで一緒になって語り合うのは楽しい。
- 6 勝手がわかってきたので、スムーズに話がまとまって、数多くのアイデアが出せたように思います。机においてもらってあるヒントのカードも使いやすいです。
- 7 気楽に参加できるスタイルが良い
- 8 具体的に色々な意見が出せたから。
- 9 交流会などはほとんど参加していませんが、楽しい時を過ごさせてい頂きました。参考になります。
- 10 個人的な意見が強すぎたところ。もっと客観的に楽しく妄想的に考えられたら良かった。
- 11 これからの玉城町に楽しみがふえます。
- 12 今回初めて参加させていただき、いろいろ知識を得られました。
- 13 様々な方のご意見をうかがうことが出来ました。町内のカタが様々な立場の中で意見を出し合い交流することは面白い企画です。
- 14 自分では思いつかないことが皆さんと話しているうちにいろいろ湧き出してくるのでたのしかったです。同じグループに金森家を直接知る方が2人もいておひなさますごいのがあったそうです(50年前)すごいなと思いました。
- 15 色々な意見が聞けて参考になった面白い。
- 16 第1～3回のワークショップを通して、100人委員会で出たキーワードを元により玄甲舎の利活用について話し合うことができた
- 17 話が色々出てまとまりにもたいい変でした。地元の町づくりをひろめようと言うことで、カラオケ、花火大会、マルシェ他・・・
- 18 毎回同じような意見が多い。人まかせな感じがする。
- 19 町のことに考えやアイデアを持って見える方と話できておもしろかったです。
- 20 みなさんと楽しい話しが出来て、スムーズな作成が出来ました。良かったです。
- 21 メンバーのフリートークで楽しい雰囲気良かった。
- 22 若い人の積極的な意見に感動！！玉城に生まれ玉城で生活している見ですが、余りにも玉城の歴史を知らなさすぎる自分に赤面しています。

Q7 第2回100人委員会を今年度内に計画していますが、参加したいと思いませんか？

1 参加したい	18	100.0%
2 参加したくない	0	0.0%
3 どちらともいえない	5	27.8%
合計	18	100.0%



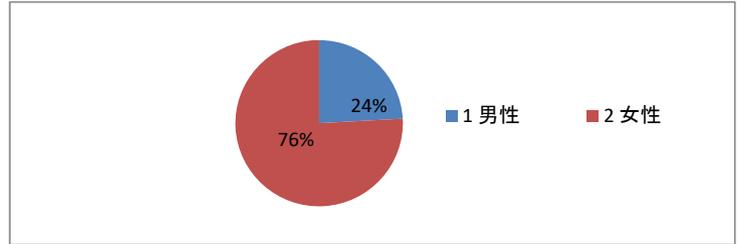
Q8 その他、ご意見がございましたらお聞かせください(自由記載)

- 「玄甲舎ナウ」というのが(他グループ)すごくよかったと思います。インターネットで発信して、定点カメラで修復の様子をぜひ記録・撮影してほしいです。早く！今のうちに！！修理のプロセスが見れるとずっと見届けられるし、とても愛着が湧くと思います。
- 1 かわら外したりとかも(間に合わなかったけど)パラパラまんがみたいに進んでいく様子が記録できると、ああこんなふうだったんだーと百聞は一見にしかず、すごく良い(おもしろい)と思います。
 - 2 駅前の観光案内に詳細な情報をしてほしい。
 - 3 車社会からコンパクトなウォーキング、サイクリングで活動出来る足がかりに(拠点として)今回のワークショップが刺激になれば
 - 4 玄甲舎だけ手は長続きしないと思われるので、これを核にして他の史跡を広めて行ければ？
 - 5 今回は内容のまとまりが悪かった。
 - 6 自分たちで実行委員になったら、という前提で考えたほうがよいのでは
 - 7 第1回の100人委員会で多数の意見が出ていた田丸駅南口の開放が先日の議会で全くもんだ音せず無視されていたようです。行政の消極的運営に問題がありそうですね。
 - 8 前にも書いたが、この委員会に参加するものに対して玄甲舎の修復後の内容(内部の部屋の大きさや内容を予備知識としてインプットしておいたほうが良い)

まちづくり講演会 アンケート結果

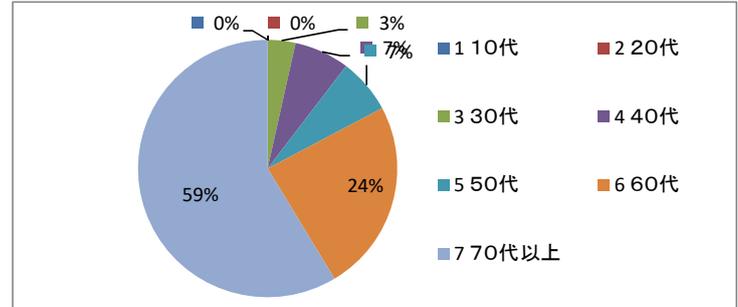
Q1 あなたの性別をお教えてください

1 男性	7	24.1%
2 女性	22	75.9%
合計	29	



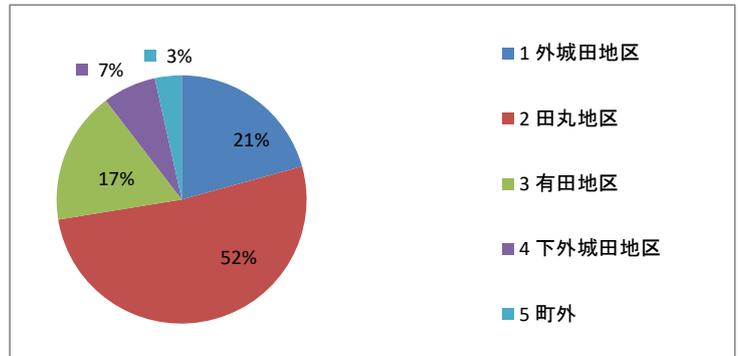
Q2 あなたの年齢をお教えてください

1 10代	0	0.0%
2 20代	0	0.0%
3 30代	1	3.4%
4 40代	2	6.9%
5 50代	2	6.9%
6 60代	7	24.1%
7 70代以上	17	58.6%
合計	29	100.0%



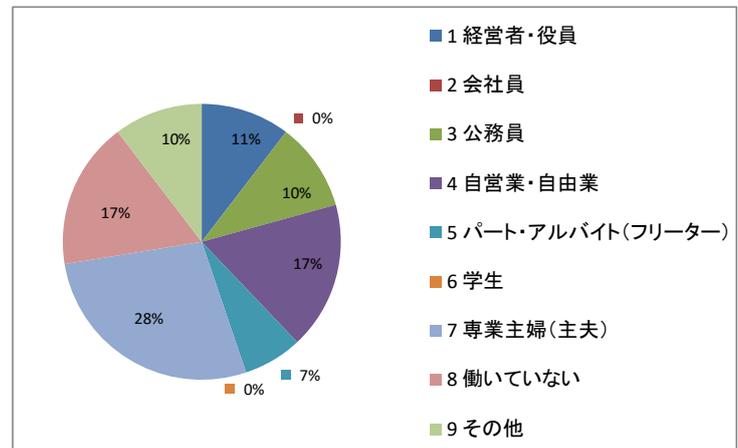
Q3 お住まいをお教えてください

1 外城田地区	6	20.7%
2 田丸地区	15	51.7%
3 有田地区	5	17.2%
4 下外城田地区	2	6.9%
5 町外	1	3.4%
合計	29	100.0%



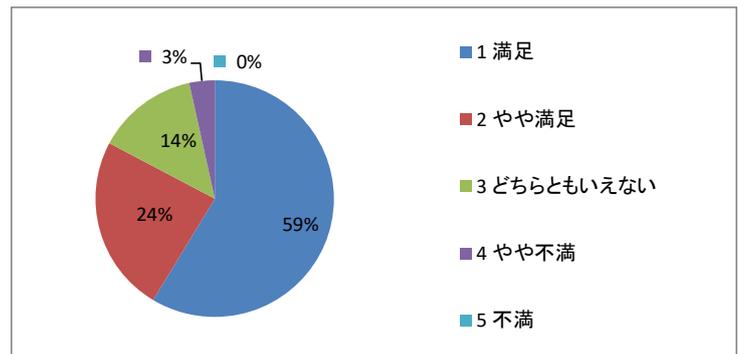
Q4 普段のお仕事をお教えてください

1 経営者・役員	3	10.3%
2 会社員	0	0.0%
3 公務員	3	10.3%
4 自営業・自由業	5	17.2%
5 パート・アルバイト(フリーター)	2	6.9%
6 学生	0	0.0%
7 専業主婦(主夫)	8	27.6%
8 働いていない	5	17.2%
9 その他	3	10.3%
合計	29	100.0%



Q5 本日の内容についての満足度をお教えてください

1 満足	17	58.6%
2 やや満足	7	24.1%
3 どちらともいえない	4	13.8%
4 やや不満	1	3.4%
5 不満	0	0.0%
合計	29	100.0%

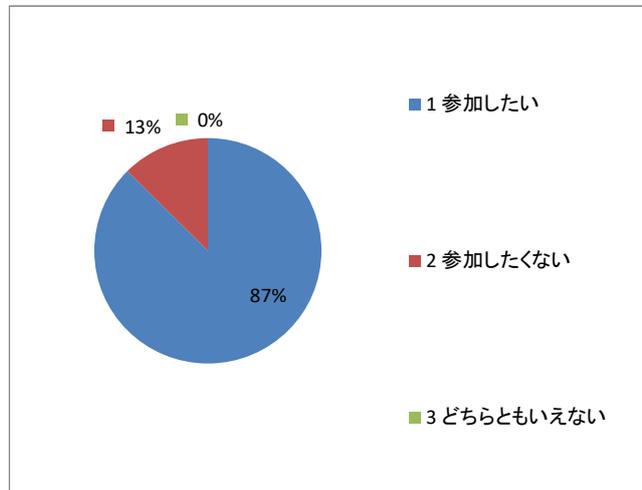


Q6 満足度の理由をお教えてください。

- 1 自分の考え方やあいまいな認識が整理できました。
- 2 様々な角度からの意見を聞かせていただけて良かったです。ありがとうございました。
- 3 まちづくりはワクワクするものと本当に少し?! ワクワクしました。
- 4 いろいろ話がきけて良かったです
- 5 質問の時間が取れなかった分だけ不満
- 6 ひさいの事がよく分かった
- 7 時間不足
- 8 楽しく聞きました。
- 9 被災地をどの様に立ち上げていかれた様子がわかり、玉城町の玄甲舎の立ち上げにつながっていくのではと思う。
- 10 クリエイティブに生活を考えるて行く事がとても、分かりやすく、実例(震災)を芝に、伝わりました。意義も含めて!
- 11 たくさんの人のお話をきくことが出来勉強になりました。
- 12 納得の行く説明で判りやすかった。
- 13 もう少し* * * 分の時間を作って参加者の意見を聞きたかった。
- 14 話の内容が現実的で分かりやすく話されたのでよく理解できた。
- 15 時間不足 もう少し深めたかった。
- 16 研修内容一方法はわかりやすく、参加しやすかった
- 17 講演がとても良かった。「まちづくり」参考にさせてもらいたい。
- 18 玉城町を客観的にみる機会となった。* * についても一町民としてもっと考えて行きたいと思う
- 19 お話がわかりやすく楽しかった
- 20 思っていた話しと違った カードはよかった
- 21 フレンドリーな先生といっちゃいけない浅見さんのお話がとても良かったです。スライドの文字が浅見さんの手書きなのか読みやすくて、温かくて良かったです。ホワイトボードの文字もまとめも、素晴らしいと思いました。ずっと聞いていたい感じでした。ありがとう
- 22 とても楽しく拝聴しました。災害のあった後なので特に
- 23 楽しく進めていただいたこと、玉城町民の現況を聞いていただけたこと、旗上げ方式が良かった。

Q7 第2回100人委員会を今年度内に計画していますが、参加したいと思いませんか？

1 参加したい	21	100.0%
2 参加したくない	3	14.3%
3 どちらともいえない	0	0.0%
合計	21	100.0%



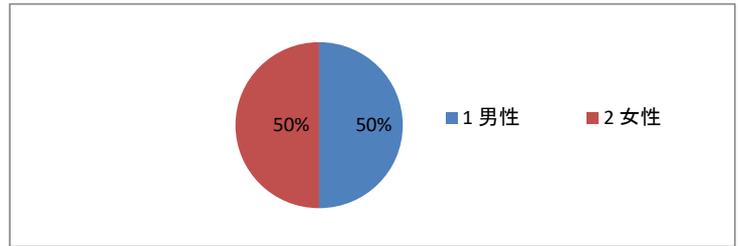
Q8 その他、ご意見がございましたらお聞かせください(自由記載)

- 1 異学種間の交流の機会をもって作れば良いと思う。
- 2 もっと時間をとって良かったと思います。せっかくのこの機会だったので時間をかけて話合えればなお良いと思った。
- 3 形を変えてでも継続してください 玄甲舎に限定せずに
- 4 玄甲舎にしばられずに、いききした街づくりに少しずつでもなれば良いと思う。
- 5 今回の水害であらためて自助・共助・公助について考えさせられました。自治会の大切さも、お話の中に盛り込まれてて、変化と減少を楽しめる人間になりたいと思います。参加できてよかったです。浅見コーディネーター第2弾もお願いします。
- 6 町民が少人数でもったいなかった
- 7 災害に対する対策のこと、玄甲舎のとりのくみのことが具体的に聞けなかったことが残念でした。

第7回アンケート結果

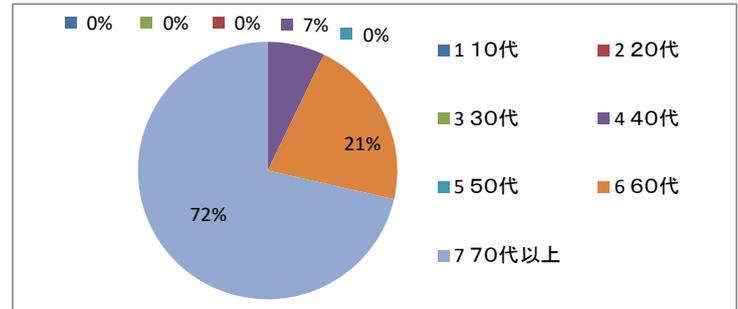
Q1 あなたの性別をお教えてください

1 男性	7	50.0%
2 女性	7	50.0%
合計	14	



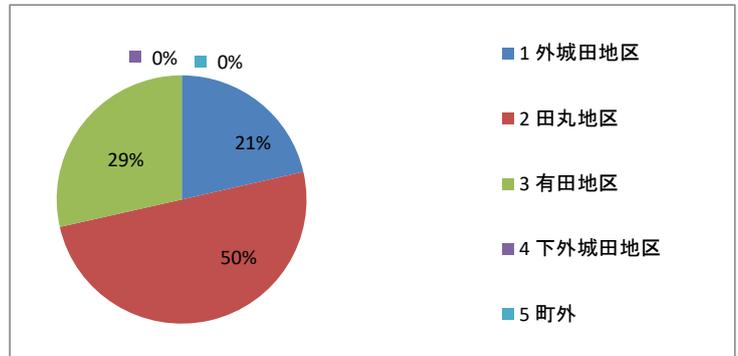
Q2 あなたの年齢をお教えてください

1 10代	0	0.0%
2 20代	0	0.0%
3 30代	0	0.0%
4 40代	1	7.1%
5 50代	0	0.0%
6 60代	3	21.4%
7 70代以上	10	71.4%
合計	14	100.0%



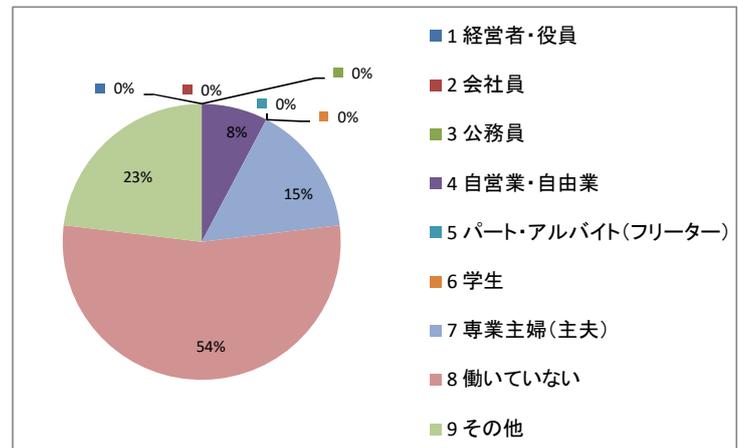
Q3 お住まいをお教えてください

1 外城田地区	3	21.4%
2 田丸地区	7	50.0%
3 有田地区	4	28.6%
4 下外城田地区	0	0.0%
5 町外	0	0.0%
合計	14	100.0%



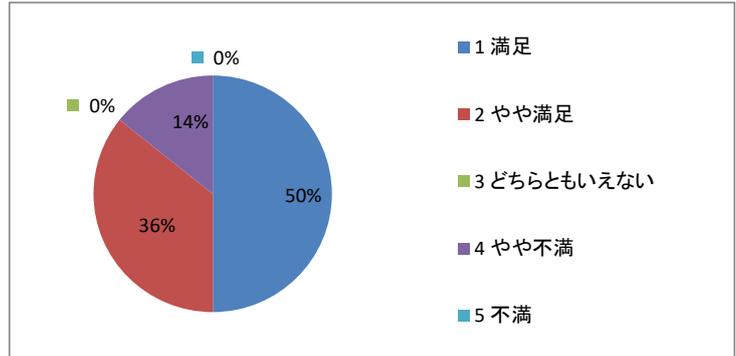
Q4 普段のお仕事をお教えてください

1 経営者・役員	0	0.0%
2 会社員	0	0.0%
3 公務員	0	0.0%
4 自営業・自由業	1	7.7%
5 パート・アルバイト(フリーター)	0	0.0%
6 学生	0	0.0%
7 専業主婦(主夫)	2	15.4%
8 働いていない	7	53.8%
9 その他	3	23.1%
合計	13	100.0%



Q5 本日の内容についての満足度をお教えてください

1	満足	7	50.0%
2	やや満足	5	35.7%
3	どちらともいえない	0	0.0%
4	やや不満	2	14.3%
5	不満	0	0.0%
	合計	14	100.0%

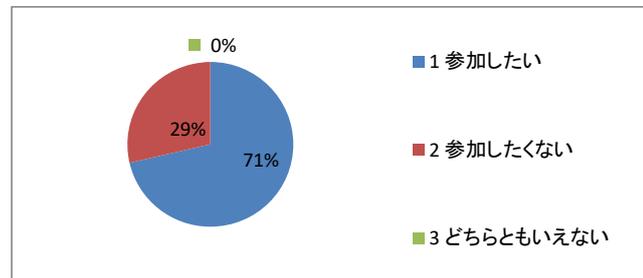


Q6 満足度の理由をお教えてください。

- 1 現状を知ることができた。
- 2 他の人がいろいろ考えていることが知れたこと。今回初めての参加だったので、今までの声がこのようにまとめられたことが分かった
- 3 自由に発言できて、やりやすい
- 4 しっかりした型が出来てないのでやや満足でした。いい型で使っていくのかお金の問題なのか
- 5 自分の***では活動を述べられ、今後も活かせるのではと思った。

Q7 第2回100人委員会を今年度内に計画していますが、参加したいと思いますか？

1	参加したい	5	71.4%
2	参加したくない	2	28.6%
3	どちらともいえない	0	0.0%
	合計	7	100.0%



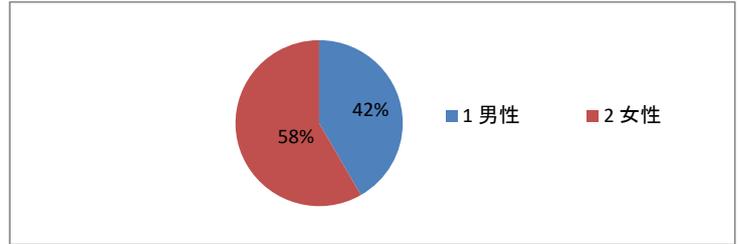
Q8 その他、ご意見がございましたらお聞かせください(自由記載)

玄甲舎は静かな茶室として心のふるさとのようにそのままの方が良い
 くだいようですが、町として、学芸員(専門)文化・歴史を研究する者、設定を本格的にしてほしい。

第8回アンケート結果

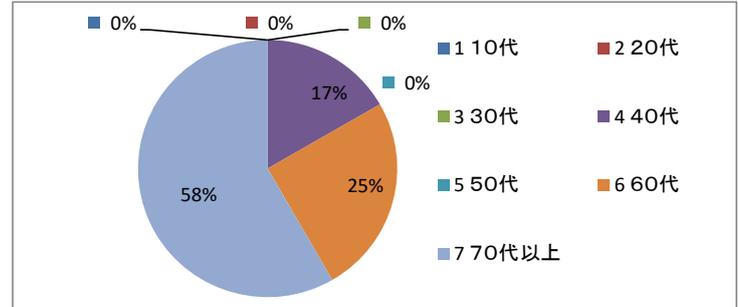
Q1 あなたの性別をお教えてください

1 男性	5	41.7%
2 女性	7	58.3%
合計	12	



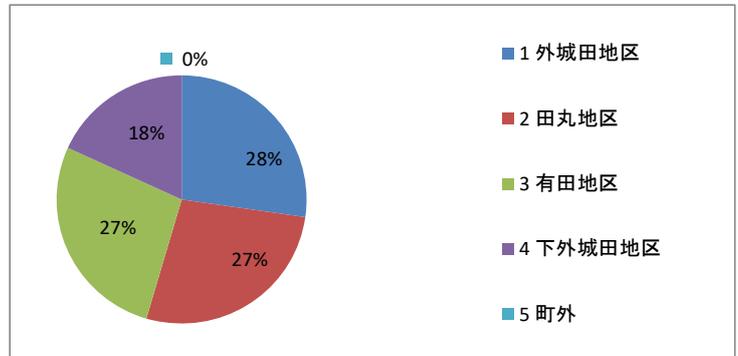
Q2 あなたの年齢をお教えてください

1 10代	0	0.0%
2 20代	0	0.0%
3 30代	0	0.0%
4 40代	2	16.7%
5 50代	0	0.0%
6 60代	3	25.0%
7 70代以上	7	58.3%
合計	12	100.0%



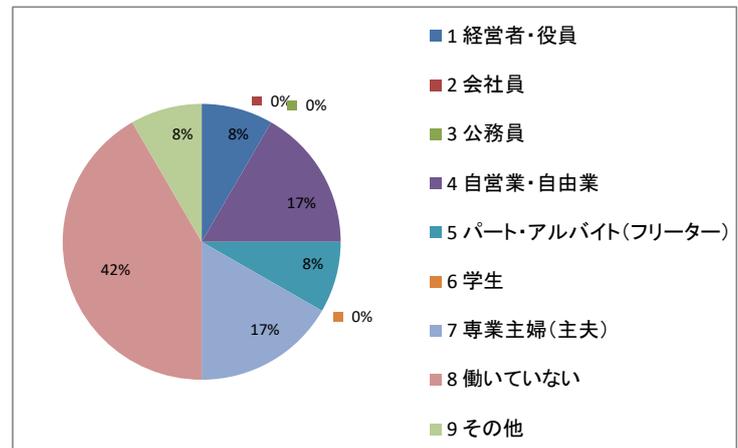
Q3 お住まいをお教えてください

1 外城田地区	3	27.3%
2 田丸地区	3	27.3%
3 有田地区	3	27.3%
4 下外城田地区	2	18.2%
5 町外	0	0.0%
合計	11	100.0%



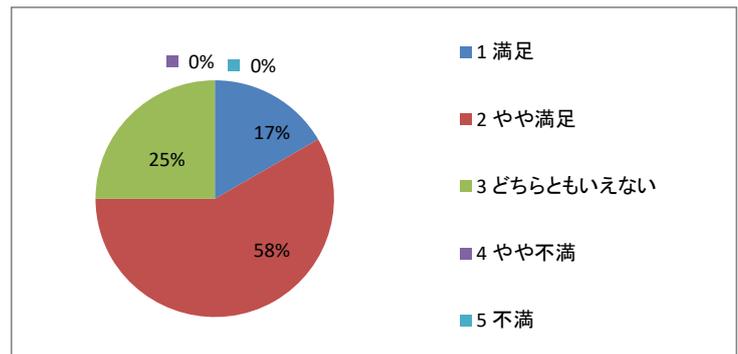
Q4 普段のお仕事をお教えてください

1 経営者・役員	1	8.3%
2 会社員	0	0.0%
3 公務員	0	0.0%
4 自営業・自由業	2	16.7%
5 パート・アルバイト(フリーター)	1	8.3%
6 学生	0	0.0%
7 専業主婦(主夫)	2	16.7%
8 働いていない	5	41.7%
9 その他	1	8.3%
合計	12	100.0%



Q5 本日の内容についての満足度をお教えてください

1 満足	2	16.7%
2 やや満足	7	58.3%
3 どちらともいえない	3	25.0%
4 やや不満	0	0.0%
5 不満	0	0.0%
合計	12	100.0%

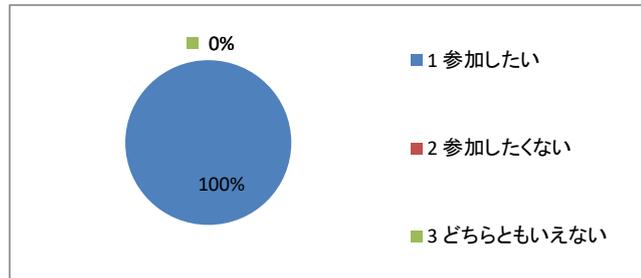


Q6 満足度の理由をお教えてください。

- 1 前から****さんと知人でしたが意見が聞けましてよかったです。
- 2 ある程度の意見交換が出来た。
- 3 玄甲舎でなくてもいい意見が多かった。公民館でもいいのでは？
- 4 分かり易い
- 5 たくさんの人の意見を聞かせて頂けたので

Q7 第2回100人委員会を今年度内に計画していますが、参加したいと思えますか？

1 参加したい	9	100.0%
2 参加したくない	0	0.0%
3 どちらともいえない	0	0.0%
合計	9	100.0%



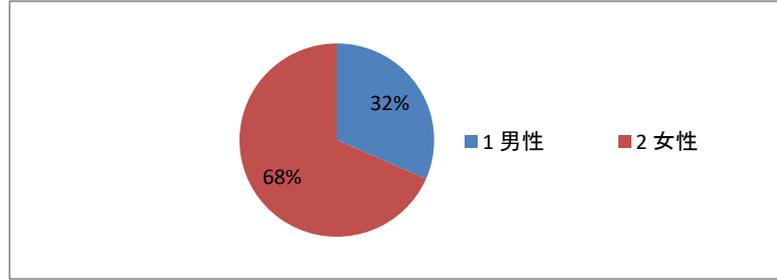
Q8 その他、ご意見がございましたらお聞かせください(自由記載)

- 1 玄甲舎の整備進行状況をときどき教えてほしい

第9回アンケート結果

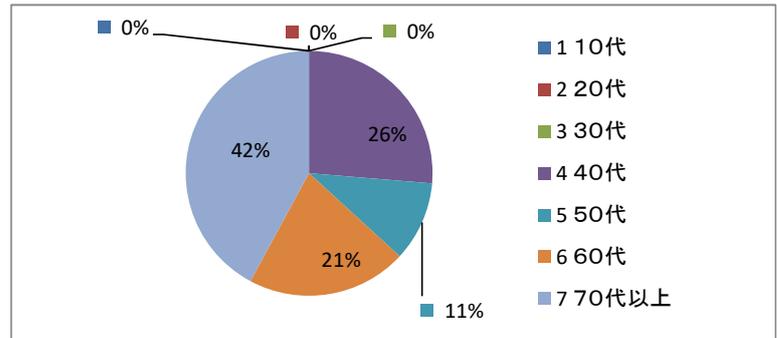
Q1 あなたの性別をお教えてください

1 男性	6	31.6%
2 女性	13	68.4%
合計	19	100.0%



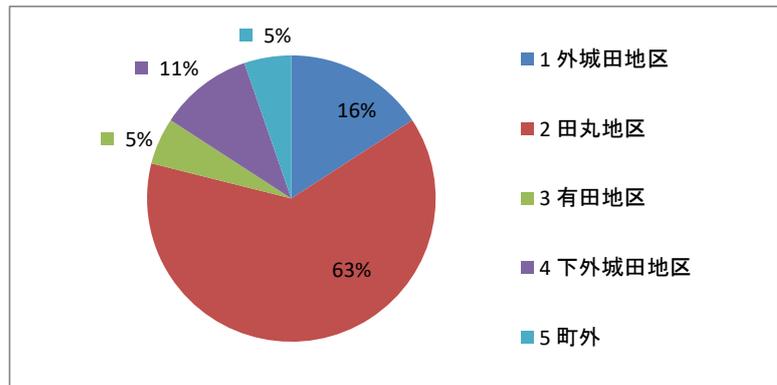
Q2 あなたの年齢をお教えてください

1 10代	0	0.0%
2 20代	0	0.0%
3 30代	0	0.0%
4 40代	5	26.3%
5 50代	2	10.5%
6 60代	4	21.1%
7 70代以上	8	42.1%
合計	19	100.0%



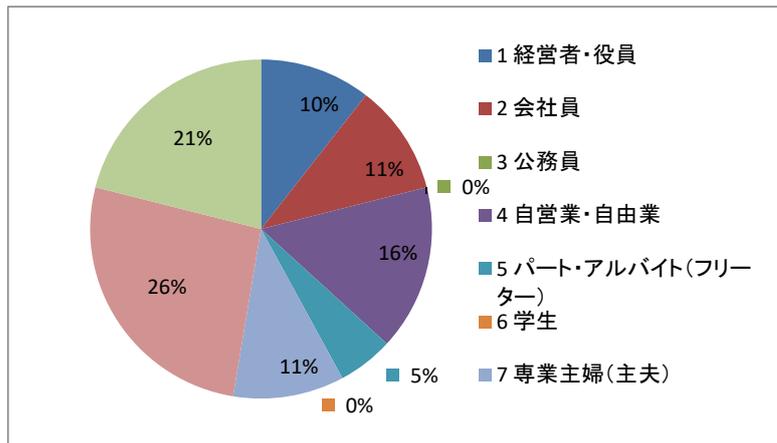
Q3 お住まいをお教えてください

1 外城田地区	3	15.8%
2 田丸地区	12	63.2%
3 有田地区	1	5.3%
4 下外城田地区	2	10.5%
5 町外	1	5.3%
合計	19	100.0%



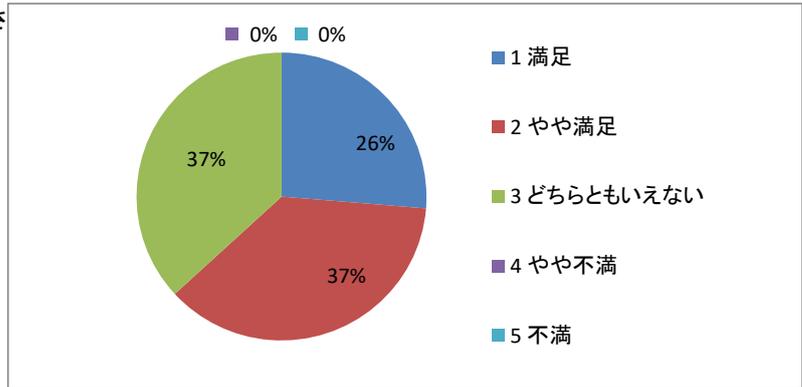
Q4 普段のお仕事をお教えてください

1 経営者・役員	2	10.5%
2 会社員	2	10.5%
3 公務員	0	0.0%
4 自営業・自	3	15.8%
5 パート・ア	1	5.3%
6 学生	0	0.0%
7 専業主婦	2	10.5%
8 働いていな	5	26.3%
9 その他	4	21.1%
合計	19	100.0%



Q5 本日の内容についての満足度をお教えてください

1	満足	5	26.3%
2	やや満足	7	36.8%
3	どちらとも	7	36.8%
4	やや不満	0	0.0%
5	不満	0	0.0%
	合計	19	100.0%

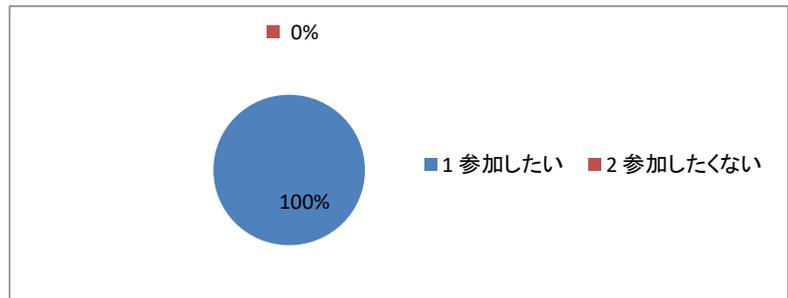


Q6 満足度の理由をお教えてください。

- 1 今回初めて参加させていただき、最初はとまどいがありましたが、話を進めるに連れ理解できる様になりました。最初から参加できていれば直良かったと思った次第です。
- 2 いろんな話が出てたのしかった。
- 3 自分のイメージがはっきりしない。
- 4 年齢、立場関係なく活発な意見が出ていたので。
- 5 メンバーが個性的で、ワークショップの意味があった。
- 6 難しくはあったがわきあいあいと楽しかった(知人が多かったから)
- 7 様々の経験の人々と交流できることが良い。
- 8 皆さんと楽しく玄甲舎の事でお話しが出来た事はとてもいい事だった
- 9 グループワークは楽しい
- 10 むずかしい
- 11 いろんな方との出会いがあり、ワークショップ自体が交流できる機会ともなっている。
- 12 内容がどのように評価されるか判断できません。

Q7 第2回100人委員会を今年度内

1	参加したい	13	100.0%
2	参加したくない	0	0.0%
	合計	13	100.0%



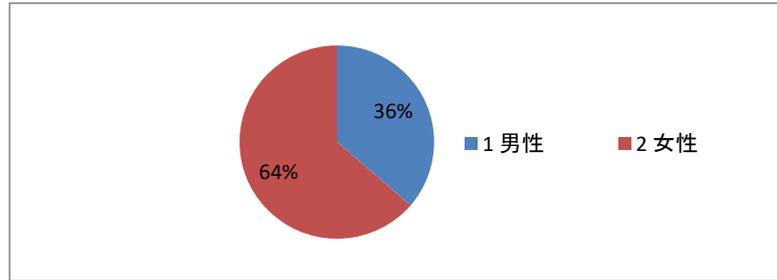
Q8 その他、ご意見がございましたらお聞かせください(自由記載)

- 1 今回玄甲舎のみのワークショップであったが、玄甲舎だけではインパクトが小さいと思う。玄甲舎を含めた地域、伊勢での玄甲舎であればもっと活用できるのではないかと思います。
- 2 文化財の保護の点から、どこまでの範囲で使用出来るのかを、明確にしてほしい。最初から夢のあることばかり考えてしまいました。
- 3 玄甲舎開業前にワークショップ参加者に対し、事前に内覧会をしてほしい。
- 4 係の人は皆様の様子を見てお話しをしてほしい シャベリすぎ
- 5 足元が寒かった。
- 6 お茶道家は謝金いらないと思います(使いたいきもちの方が大きいと思います)。演奏家もいらないし、いる人に5000円は安すぎます。
- 7 地域運営組織自体がわからない。又、有効に動くためには、ある程度の経済的基盤が必要だと考える。

第2回100人委員会アンケート結果

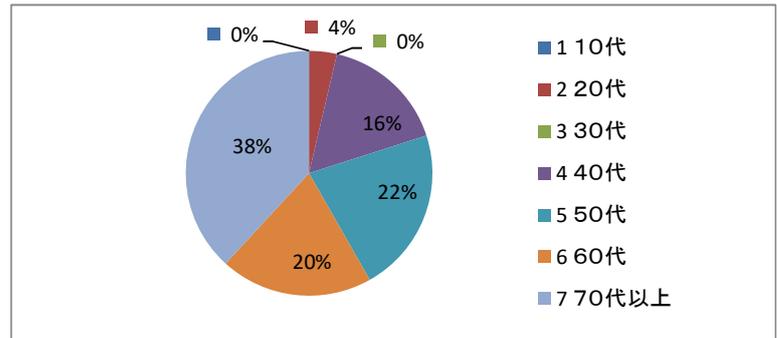
Q1 あなたの性別をお教えてください

1 男性	20	36.4%
2 女性	35	63.6%
合計	55	100.0%



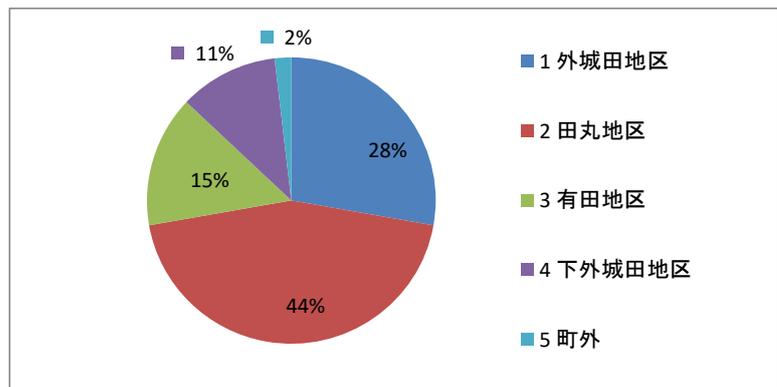
Q2 あなたの年齢をお教えてください

1 10代	0	0.0%
2 20代	2	3.6%
3 30代	0	0.0%
4 40代	9	16.4%
5 50代	12	21.8%
6 60代	11	20.0%
7 70代以上	21	38.2%
合計	55	100.0%



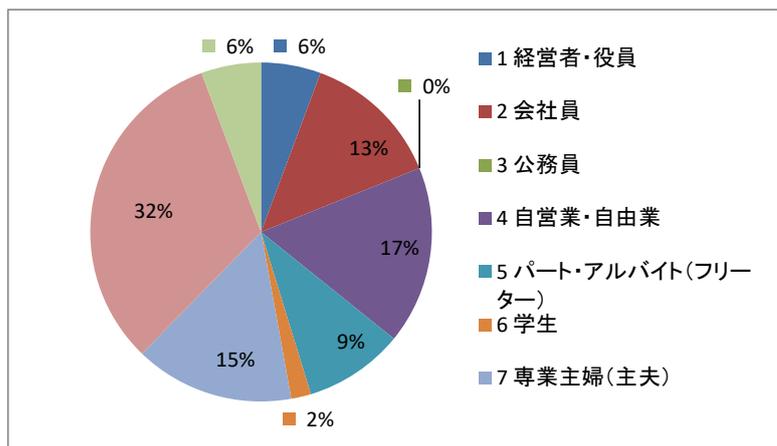
Q3 お住まいをお教えてください

1 外城田地区	15	27.8%
2 田丸地区	24	44.4%
3 有田地区	8	14.8%
4 下外城田地区	6	11.1%
5 町外	1	1.9%
合計	54	100.0%



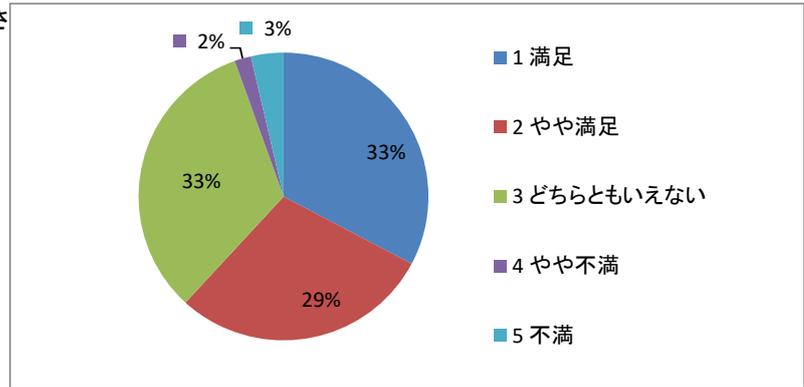
Q4 普段のお仕事をお教えてください

1 経営者・役員	3	5.7%
2 会社員	7	13.2%
3 公務員	0	0.0%
4 自営業・自	9	17.0%
5 パート・ア	5	9.4%
6 学生	1	1.9%
7 専業主婦	8	15.1%
8 働いていな	17	32.1%
9 その他	3	5.7%
合計	53	100.0%



Q5 本日の内容についての満足度をお教えてください

1	満足	18	32.7%
2	やや満足	16	29.1%
3	どちらとも	18	32.7%
4	やや不満	1	1.8%
5	不満	2	3.6%
	合計	55	100.0%



Q6 満足度の理由をお教えてください。

- 1 自分の思っていること以外を知ることができた。
- 2 初めての参加でしたが、グループ内で自分の意見が気楽に出せる仕組みが良かったです。
- 3 「やりましたよ」の実績作り見え見え、反対意見を聞く事
- 4 従来からほとんど参加しているがカフェ、レストランが必要だとの意見は出ていませんよ！！
- 5 グループで楽しく話し合えた
- 6 内容と年齢層の比が悪い。ワークはよかった。
- 7 雑談に終わったが文化人が田丸には多いことを知ったのが良かった。
- 8 色々と他の人の意見が聞けた
- 9 自分の知らないことがたくさんあって、人のご縁がつながっていること、楽しい話がたくさん聞けたこと。
- 10 前は知らないうちに開催されてしまって残念に思いました。今回遅ればせながら参加でき幸せでした。私の意見もえんたんに書くことができました。
- 11 若い方達と同席させてもらいすごく良い意見が出ましたので良かったです。
- 12 楽しく、いろいろとお話できたこと。他のグループのプレートにとっても良い情報や知識があって驚いたこと。
- 13 初めての方もお知り合いになれ、有意義な話ができた。
- 14 いろんな方々の意見を聞いてくださることに感謝です。玄甲舎がきっかけにまちづくりが成功してくれますことを祈っています。
- 15 楽しく玄甲舎のことについて語らえた事。
- 16 時間設定がわかりやすい。参加しやすかった。
- 17 初めて参加致しました。知らなかった方々とお会いでき、お話もできて楽しかったです。
- 18 仕方のないことですが、周りの声が大きく私達のグループの話が聞きづらいです。
- 19 WSのやり方なかなかおもしろかったです。
- 20 ひと班の人数が少なく書きやすかったです。町への要望を言う人がいなくなればいいのに。WSとしてやりたい。
- 21 他の人々のご意見を理解できたから
- 22 みんなが玉城町のことについて考えてくれている。
- 23 ここでの意見がどのように活用されるのか、不明。理解できない。
- 24 楽しく意見交換ができた
- 25 特になし
- 26 気軽に参加でき、みなさんと楽しく話し合いができた
- 27 初対面の方と忌憚なく意見の交換ができた。自分では思いつかない発想にシゲキを受けました。
- 28 皆さん玉城町のことを真剣に考えていらっしゃるがよくわかり、良かった。
- 29 普段思っていることが話してきたから満足です。
- 30 グループの人が反対ばかりの人なのでやりにくかった。
- 31 特になし
- 32 大変満足した。未来の玉城町に希望が持てる。
- 33 同席の方が3人知り合いでテーマに関係のない話で盛り上がり、テーマについての話が充分でなかった
- 34 無作為抽出の方が困っていた
- 35 新しい人との出会い、意見交換。玉城町に思いを寄せてくれる人がおん何もいることがわかってうれしい。
- 36 玄甲舎ノリ活用が具体的でない
- 37 他人の意見等を拝見して、自分にはない発想を色々を見せていただき感心しました。
- 38 いろいろな意見を聞くことができました。人と人とが町内、町外の方々と交流できる場所になっていくと信じております。
- 39 いろんな年齢の方がいるので話をしていると勉強になることもあるが、時間をキチンと決めて行ってくれると良かったかな

Q8 その他、ご意見がございましたらお聞かせください(自由記載)

- 1 時間が短い(まとまらないうちに終わってしまう)。今後ワークショップをするなら、飲食が会場内でできる場所がいい。
- 2 玄甲舎は完成したら見学可能な文化財で良い。レストランなど商業的施設は必要ない。税金の使い道に疑問有り。
- 3 現在進行した建築のみで中止することが重要。
- 4 町民の意見も十分に聞いてほしい。コンサルタントで筋道ができていて、町民の意見が反映されていないように思う。
- 5 デロイトさんの資料はちゃんと印刷して説明してほしい。
- 6 文化面での講演会や、発表会、研究会などを活発にやってほしい。
- 7 皆が利用できる施設にしてください。
- 8 まだまだきちんとしたビジョンはこれからだなあとありますが、素晴らしい文化財だと思うので大切にしていきたいです。
- 9 これから費用がかかるということで後ろ向きの意見が出ています。ぜひ頑張って玄甲舎を発展させていきましょう。
- 10 玄甲舎が完成した後、皆の誇りとなりますように祈ります。
- 11 初めて参加しましたが本当に楽しかったです。役場の皆様、お城と玄甲舎をもっともっとアピールしてください。町のシンボル話しやすい雰囲気良かったです。話し合いのテーマの①と②へつなげていくのが難しいとも感じました。若い人がもっと参加していると良いと思いました(20代、30代の)
- 12 若い人が参加できたらいいなと思います。
- 13 今まで結構参加しているが参加者それぞれが思ったことを言っており、後の意見集約が大変むずかしいと思います。よろしく願います。良い施設になることを祈ります。
- 14 またやってください。
- 15 玄甲舎の活用を具体的に提案などすればより良かったと思う
- 16 書く時間がない
- 17 もっとたくさんの人に集まってもらえるイベントを考える
- 18 玄甲舎のPRよろしく願います。
- 19 特になし
- 20 20年後魅力ある玉城町となるために文化資産として玄甲舎を活用していくことのむずかしさを改めて感じた
- 21 永久に維持管理、利活用が不明である
- 22 玄甲舎について関心のある方が町内に何名いるのか考える

